

もひつそりしてゐる。私も何事だらうと驚いて行つて見たのであるが何のそれらしい者もない様である。尙よく見ると何の事だ小さな蛙が蛇に呑まれようと
して居る所である。蛙はキュー／＼と悲鳴を上げてゐるのである。

私は此の小さい出来事を中心にして取り巻いてゐてさも天下の一大事である
らしく好奇の眼を見張つてゐる子供等の發する聲や一々の所作を凝つと見て居
た。所がKなる一番前の子供が竹切れの先きで蛇の口先を突つて蛙を逃がし
てやらうとしてゐた、するとNなる小科學者は慌て、それを押し止め『なせ君
そんな事をする』と叱る様に言ふとK『だつて可愛そうぢやないか、何も蛙は
悪い事をしないのに』N『蛙が蛇に呑まれるのは當り前ぢやないか、つまり弱い
からさ』K『だからさ此の間も先生が弱い者を助けろつて仰つたぢやないか。』
Nはフンと嘲笑的に、『そりや人間の事だよ、蛇はそんな事知らんからさ。』
と平氣である。その時Sなる滑稽な子供頓狂な聲を出して『そんなら君等教へ

てやり給へ』とやると一同どつと笑ふ。其の拍子に、ふと彼等の後ろに私の居
る事に氣が着いた。子供等はさきより悪る氣に、然し一齊に一同『先生なせ蛇は蛙
を呑むんですか』と追求して來た、その熱心極まる質問に少なからず動かされ
た私は、早速、卑近なる進化論と道德の世界の人間特有にして動物界になき事、
従つて道德が如何に人間に大切なるかを極く大ざつばに平易に説き聞かせて始
めて彼等を満足せしめた事があつた。斯かる間に彼等の内部より湧き起る問
題を發見し解決し、知識を増し教訓を得る事は多大なものである。

或る時は、兒童の一群はバツタを捕へて來てそれについて知らん事を要求し
て來た。其の機を逸せず次の理科の時間には之を研究する事にした。所が彼等の
興味焦點についてあるから質問百出で仲々面白い、斯くして此れも永久に
消え難い彼等の知識となり終るのである。

讀方教授や綴方教授にも適當の機會に自然物を利用してやれば非常に面白い

結果を得るのである。

兒童は或意味から實に詩人である。彼等の奔放自在、何物にも遮ぎられない所の主觀的情懷はあらゆる自然物に依つて觸發され、無邪氣な藝術は創作される。

彼等は自己其物を、主觀的想像其物を客觀自然界に投出して所謂ナツールに意味を與へ、死にたるものに生命を與へ、一時性のもものに永遠性を附與する。而して此れやがて後れて發生すべき文藝、藝術、宗教等の源流となり端緒となる所の情操であるのである。

斯様な意味から言つて童謡は教育上重要な意味を持つものだと思つて子供等にも作らしてゐる。

或る時、どうした機みか一羽の小雀が教室へ入つて出道を失なつてバタ／＼飛び廻つて居る内に不幸にも悪戯好きの子供に見つかつて大聲で應援を求めた

ので、大勢に手に手に箒や竹などの類を以つて追つかけて廻された。

ワイ／＼やつてゐる間に子雀は、すつかり目が廻つて方角なく打ち當つたり駈け廻つたりしてゐる内に、とう／＼捕虜になつて仕舞つた。子供等の喜びは大したものであつたがさてそれを拾つて見ると、首は力なくグニヤリと垂れ、眼は閉ざされつゝピク／＼と僅かに蟲の息を續けてゐるだけであつた。今迄成功の喜びに溢れてゐた子供等は急に、情氣却り、同情者側からは捕へた者を詰る聲さへ洩れてゐる。其の日の午後T子とM子が童謡を私の元に出した。

哀れな小雀、

T子

親に別れ 兄弟に別れた、

哀れな小雀、

つめたい土の下で

兄弟を見守る

哀れな小雀

誰か

どこかで

哀れと泣いてゐる。

哀れな小雀

M 子

ちゆ／＼雀の忠吉さん

お室の中に飛込んで

迷ひ子になつて

とう／＼みんなに掴まつた

とう／＼息がたへました

雀のかあさん今頃は

ちゆ／＼忠吉どこへ行たと

悲しい聲で鳴きながら

どんなに、さがしてゐるでせう

どんなに、さがして居るでせう。

此れはほんの一例であるが、私はいつも彼等の歌に拙いけれど曲譜をつけてやると無中になつて歌つてゐる、實に何とも言へぬ光景である。かくして彼等の情意の世界は次第に深められて行く。

或時は自分等の飼兎が死んだと言ふので、大そう悲しがつて居たが、其の日の午後に行つて見れば庭園の片隅に小さな圓塚が作つてあつて其の上には『兎ちやんの墓と』墨痕鮮やかに墓標が立つて居て周りには色々の弔旗が立てられ、前には立派な木製の鳥居があつて、お花立てには野邊の小花が挿されどこから持つて来たのか線香の煙が立ち上つてゐる。その墓の周圍には無数の小札が立てられてあつて一人々々の哀悼の意味の童謡が書き付けてあつた。何時そんな

事をやつたのか全く分らず大變驚かされた、のでありました。

其他圖書にしても常に自然界の生氣潑瀾たる活模型が次々と新らしく提供せられ、其れ等の物を通して彼等自身の個性を自由に表現するので興味津々盡くる事なく従つて成績も好くなるのである。

又地理に於ける地圖と實際との比較對照や山川江湖の實相、降雨雪、吹風等の如實自然に接し得るが故に甚だ便宜を得る事が多い、星夜一步戶外に出づれば天體に關する知識を得せしめる事が出来る。然し詳細は諸兄の想像に委せ、餘りに繁多に渡るが故に茲には叙述を略する。

第三項、一時限の長さ。

本學舎教養の對象が薄弱兒にして、その特性は前述の様である。即ち注意が散漫であるとか、たとひ一時的に注意を注いでも其れが長続きがしないとか、心身兩方面共に疲勞が早いとか、意志、忍耐力等に缺陷があるとか、言ふ事は

何れも皆一時限の長さを普通よりも短縮する事を要求してゐるのである。斯く言へば或一派の人々は言ふであらう。「それは不可ん、若し彼等にして注意力が持續せず、又意志、忍耐に於て缺くる所が有るならば、大に之を訓練し鍛錬してその力を養はなければならぬのである。宜しく教育は單に心理的法則のみならず論理的法則に従がはなければならぬのである。宜しく教育は單に心理的法則のみならず論理的法則に従がはなければならない」と。之は一應尤の議論であるけれどもそれは、全く自己矛盾の議論である。

何となれば、人間の心的能力の發達は斯くの如く外部的に命令的に教育者が引き伸ばさうとしてもそれは到底駄目な事であり、否時には却つて伸ばさうとしてゐる様な内的萌芽も全く摘除されて仕舞ふ様な結果になる事は決して少ないからである。彼等の内的本能を無視したあらゆる外部的勞作は畢竟徒勞である。のみならず、又それが心身薄弱な子供等にあつては更に一層然りと言はざ

るを得ない。何即、彼等の注意力弱く又持続性の缺乏等は全く彼等の怠慢から来たのではなくて全く病的に生理的に斯くならざるを得ない場合が多いのであるからして其生理的の缺陷や一般的健康が回復しなければ、徒らに過重の負擔のために一層心身の力を遞減せしむる結果を來たすだけであるからである。

要するに、彼等の心身の力の堪え得る範圍までに注意の力を緊張せしむべき時間、即ち一時限の長さを減少せなければならぬ、而して興味が喚起されて來、身體の方面の回復を待ち、更に練習に依る疲勞の漸減を俟ちて極めてグラデュアリーに程度を進むべきであると思ふ。何れにせよ普通小學校於ける從來の一時限の長さは薄弱者に取つては餘りに長きに失してゐたる事は明かである、實に憐むべ状態に置かれ乍ら驚馬に鞭つて悲痛な進撃を續くべく強要された彼等はさなきだに弱き體格をば累減的に薄弱化の道を辿らせられたのである。

更に、一般に疲勞回復の時間は課業時間長短に正比例するのではなくして、

等比級數的に増減せなければならないのであるからして、僅かの時間宛働いてちよい／＼休む、然し全體の働く時間總計は變りがない様にする事が最も必要ではあるまいか。此れは體育的方面から考へても、普通小學校同様、同等に教科を進めなければならないと言ふ點から考へても何不都合なく承認される事であると思ふ。

それ故に従來は

	一時限の長さ	休憩時間	一日時限數
普通の場合	四〇分	一五分	五—六時限
夏季短縮の場合	三〇分	一〇分	四—五時限

として實行して來たのであるが、従來の如く時間中に著しき倦怠の色を見せたり頭痛を催したりする様な事は無かつた、のみならず、學科に遲退を見なかつたのは幸である。

昨年 經驗に依れば、一般的精神作用は正確且つ敏速になり、(知能検査及び教師の認定に由ると) 學習能率及興味をひどく促進したのである。(後編に叙述せり。)

勿論、單なる知能測定や感覺的の諸検査では、全精神界の事は推定出来ぬ、即ち一班全豹の嫌ひありとするも、少くとも其の検査する方面につきての進歩を證する事は出来るのである。

法令は永遠に不變的に固定せる絶對者に非ざる限り、法令の故に吾人の時間短縮を責める事は全く頑愚である。法は文化の進展に従つて人間社會の理想に合すべく常に改善すべきものである。形式よりも實質を尊ぶべく、法の形式的に行はれる事よりも更に人間を造る事が一層望まじき事だからである。

第四項 兒童文庫

兒童日常の教科をよく理解するためにも、各自の個性及び興味を伸展作興す

る上からも、藝術的鑑賞力や批判力、其他一般的常識を得させる上からも、更に其れよりも彼等の精神界を豊富にし、自學的態度を確立する上からも、抑制し難き好奇心、求知欲、想像力を自在に充足する上からも、必づ設備せざるべからざるものは實に兒童文庫である、書物である。近時教育思潮の歸趨は實に斯かる方面に一致して居る様であるが之は大に意味ある事であると思ふ。即ち之れこそは將來の人間生活に於ての重要な武器を與ふるものであつて、僅かな五六ヶ年の學校教育より得る知識材料よりも遙かに無限なる、永遠的なる知識庫の鍵を與ふる所以である。

今我が圖書室に備付せるものを列擧するの繁を避けて大體の類別をするならば、

(1) 兒童の日常學習する教科に關する参考書、辭書の類及び、参考になる諸雜誌。

- (2) 物語、お伽噺、童謡、童話等の主として情操的方面のもの。
- (3) 少年少女の諸雜誌類。
- (4) 動植物、殊に昆虫や植物(有りふれた)等の検索表や圖鑑の如きもの。
- 彼等は之に依て動植物の名前や特質、生活様態等の知識を獲得するのである。

第五節 訓練的方面

之の方面も特に普通の小學校と相違したり、矛盾したりする所はない筈である。けれども、吾人が斯かる特殊の目的の下に特殊の施設を設けて活動して居る限り、之に最も適應したる訓練系統を有し或は少くとも一種異りたる方面の顧慮をなさなければならぬ事は明白である。

一言にして盡せば自覺とか自律と言ふ事になるのであると思ふが、稍具體的

に項を分けて言ふならば次の様である。

(1) 自治的精神を涵養すること

兒童をして自己自體に屬する所の一切の事項、事物、問題に關しては他より命令又は不要の干涉を避けて各自相當に解決し處理する習慣を得しめる事である。此は極めて重要な事であつて、教師は専ら、自分をコントロールし得ない場合に對してのみ、その解決の暗示を與ふるか、既に兒童の處理宜しきを得ざる時、之に再考の必要を指示するに止まる。

日常の必需品たる靴、下駄、傘、靴、帽子、手拭、齒磨、書物ノートから、遊技道具、其他の處理法、場所等を案出し彼等自らの手に依つて行はしめる様に仕向ける。

學級及び全學舎に關する行事や方法は彼等自身の問題として成員の合議的判斷に任せる。

作業、運動、遊技、遠足より其他の課業に至るまで此の方法に由つて行ひ學校を擧げて一つの自治體とする。斯くして兒童は毎日の日課の意味を十分理解し、相當に思考し、彼等自身の生活や興味を中心とし、之に即して仕事を有意義に進めて行く事が出来るのである。

(2) 體育的訓育、(即ち己の身體を保持し増進する爲には彼等に於て自發的に服従せざるべからざる必然の則が生ずる譯である) 言はば體育に由る或は體育を通しての訓育を行ふ事。

身體養護に關する注意事項や衛生的講話は時々やつてゐるのであるが、之に依つて如何に自分等が弱者であるか如何様に向上さすべきであるか自知する。而かも毎週身長・體重・胸圍を測定して之を毎回グラフに記入させるので、早速自分の不衛生であつた事が發さに體格が下がるのが辛らさに自然衛生的に規律や節制を守る様に促進せしめられる。即ち自覺と之に伴ふ努力が生じて來る

譯で、此れこそ正に體育に於ける有力且つ永遠的なる形式陶冶であると思ふのである。

彼等が體重・胸圍等を計る場合、その天秤や尺度の目盛を見つめるその目つきは常に畢狀の緊張を示してゐるではないか。かゝる自覺的體育が自己の心身に一種の自律的拘束を與ふるに至るは訓練上に於ても重大なる意義をなすものである。自律の根本をば體育的自覺に得る事が多い。

(3) 規律 即ち自由に内在する所の一種の規範を恪守せしむる事。更に換言すれば、目的の自覺に伴ふ自己自身に規整を可能ならしむる事。

兒童の生命は潑瀾たる活動性にあり、自由にして何等こだわりなき行動にあるのである。故に之をば認め之を正しく助長せしむるは賢明なる教育者の爲すべき事である。自由なき所、發展はあらず、自由こそは實に尊きものを生産する所の母體である。

然れどもこの活動性なるものも、之を其儘に放置するに於ては眞の教育をなしたものと云ふことは出来ない。人が一度び或る一定の理想の下に教養を施さんとするに於ては、素朴的自由も自ら或る程度の規制或は變容を受けなければならぬ。しかし、それと言つて自由發展の萌芽を摘み去つて（過去の教育の如く）仕舞つては、其處には何等残らないのである。生命は既に出奔して居るのである。いくら理想が立つたからと云つて自由は全く生命を失はない。否却つてこの目的の自覺こそ自由性は大きく正しき發展を遂げる事が出来るのである。自由極致（徹底）は必然である法則である。則の指示する所に従ふは最も自由なる道である事を體驗させなければならない。

自由とは現代人の多くが意味付けて居る様な心理的衝動的一面の自由ではない。又目的に依る規制と言ふ事は、何も自由を抑壓しその力を削減する事ではない。其の實質内容は規制なき以前と毫末も差異がなく、又力に於ての變化も

ないのであるが、只異なるのは其の實質その力の働らく方向及び其形式に於て少許の違ひを生ずるだけである。而かもそれは後年に於て最も重大なる生ずる徹のものである。

經驗的生命論者中には、全く理想的目的方面を認めないものも有る様であるが、其れは全く妄論であり自家矛盾の議論である。何即、彼等は全く偏狭なる自由に捕はれて仕舞つて亂射的妄動的なものをさへも肯定して、何等眞實の自由の通過すべき唯一の必然的過程を忘れ、従つて理想的に内容づけたる自由のみが尊ぶべきであると言ふ事、換言すれば素朴の自由が合理的の形に變容したる場合のみが最も尊ぶべきであると言ふ事を知らないからである。何は兎もあれ人間は理性的存在者である以上、何を言ひ何を爲すにも、その目的又は理想てふものを多かれ少かれ意識せなければならず、又實際然うだからである。原始的意識の出現は、何等かの要求又は目標に依つて喚起され生起するものだ

からである。(詳論省略)

それ故に我が學舎では極めてフリーなる生活と空氣の中に於て、自由自身の決定する(指示する)ルールを內的に肯定し、自ら之に服せしむる様に努めてゐる。訓練法は出来るだけ各自の理性に訴へしめ、叱責懲罰の代りに反省の必要を暗示し、賞讃する前に先づ良心の賞讃の聲に耳を傾けしめる。かくして兒童等は自由の裡に尊嚴なる良心の命令を聞き、規則の自律的服従に伴ふ良心の快感を味はしめる様にしてゐる。

此の學舎では、子供等と教師の協議の結果次の規約を決定して、要所々々に貼り付けて各自の自律心を刺戟し奮起さしてゐます。

(イ)一般の心得

- (1) 自分の事はすべて自分でやりませう。
- (2) 常に自分の身體や行に氣をつけませう。

(3) 先生の仰やる事や規則に従ひませう。

(4) 動物や植物を可愛がつてやりませう。

(5) ここは大きな家庭ですから皆さんと仲善くしませう。

(ロ) 其他部的の心得、風呂場、洗面場、便所、教室、食堂、等には其れ／＼同様の方法で決めて實行して來ましたが、其の成績は誠に良好です。今迄先生から言ひつけられても、只其場限りで後には直ぐに忘れて仕舞つたり、又質の好くないのになると陰でこつそりやる(反則を)ものが出來たり、更に、却つて反感を以つて心服しなかつたりする様な子供も、自分自身に立てた規則だと自ら喜んで進んでやる様になるので前の缺點を充分補つて餘りある様になつたのである。それは理論上では成程然うなるだらうと言ふ事は分つても、實際の状態を見ると一層驚かされるのである。

偶に、反則を行つとしても子供にも可成強い自責或は責任感があつて、教師

から言はれない前に反省し後悔してゐるのである。その則なるものが自分の立てたものである。少くとも理解し承認したものであるからには、尙更深刻に反省し恥かしく思ふに至るものである。

吾人は此の反省、此の自責の念が非常に尊いのであると思ふ。之が彼等の悪行に對する最大の苦痛であり懲戒であり、報復である様にしたと思ふ。此の天の懲罰、自然の詰責以下に人爲的な、形式的の懲戒は唯、子供等の直き精神を歪め、偽善を助長し、反感を買ひ、道德的品性を損傷せしむる外、何物をも獲得する事が出来ない。

然し乍ら吾人は、命令を下すか、指示をなす場合に一々之を説明し了解せしめて後に非ざれば決して行はしめないと要求するのではない。

兒童群、即ち一學舎てふ小社會生活の成員として根本的に絶對的に心得て居なければならぬ守則は先づ之を指示して之に服せしめ然る後、兒童が自ら之に

質問し來るか、或は暗に疑惑を生ずるに至るか、又は他の適當の機を捉へて之を明瞭にしてやるか。それでも難解な様な事ならば無理にくだしく言ふ必要はないと思ふ。唯團體生活をなす上に屹度必要であると暗示的に言つて置けばよいのである。又、極めて簡単な道理であれば始めから知らして置く事もよいと思ふ。要するに實際上の個々特殊の場合に適した様に根本精神を誤らぬ様に適用すべきであると思ふ。

(四)自然物及び自然現象に親しみ、之を觀察鑑賞せしめ、其の偉大莊嚴なるを感得せしむる。

吾人は信する、大自然は實に靈妙なる作用をなすものである、と。それは、我々の醜くき魂を美しく潔め、歪めるものを直くし、不純なるものを純に、濁れるものを清くし、荒める心に和らぎを與へ、疑ふ者に信を附與する。

或は又、外的のものを内的に充實し、内的のものを外的に完成し、不明瞭な

るものを明瞭に、人間的のものを神的に導びく作用を顯著に、且つ巧妙に行ふのである。

吾人教育者は斯かる尊とき働らきの助手をなし、或時は仲介者となるだけである。之が吾人に許されたる唯一の義務であり本領である。少くとも之の作用をば妨害しない様に努めなくてはならぬのである。

(五)全學舎を擧げて一大家庭の感あらしめ、相互に自己の分を守ると共に、相互に助け合ひ和らぎ合ふ所のいみじき道場たらしむる事。

共同生活なるものを理解し、それに於ける自己の位置及び其の分を知り、又他人の其れを知り合ひ、互に愛と同情とに依つて扶け合ひ清め合ひつゝ、眞理への憧憬と研鑽とを進めんとするものである。

教師も従つて教師兼父母として之に臨み、兒童等をば一視同仁的に恰かも自己の子女を導びくが如くする。従つて従來の如き教師對兒童の間の一種不要の

且つ非教育的なる溝渠又は隔避を取り除き得て、全々露々たる和氣の中に教養を進める事が出来るのである。

第六節 體育養護の方面

吾人は、之の方面の大綱或は主要關心事を次の如く定め而して之が實現を努力してゐる。

- (1) 清鮮なる空氣を多量に呼吸せしむる事。
- (2) 純粹の日光に充分浴せしむる事。
- (3) 適度の運動をなさしむべき事。
- (4) 睡眠休息を十分にする事。
- (5) 營養を適當に適量に攝取せしむべき事。

今左に吾人の從來なし來れる實際上の顧慮をば簡單に叙述して見たいと思ふ。

一、空氣

本學舎の位置が海濱に近き青松中に有る事からして、自然的な環境自體が多分のオゾンを含んでゐるが故に、かゝる清淨なる空氣を呼吸するが故に、吾人は唯多くの時間茲に止まらしめる様にし、且つ自然のまゝの清き空氣に多く浸らせる様に工夫する事が大切である。

我學舎では自由遊戯の時間や放課時間などの場合は松林や草原で自由に嬉戲する事が出来るが故に、其點は非常に好都合である。且つ普通授業も、戶外殊に松林中でやつてゐるので十分衛生的に出来るのである。

但し、雨天の際とか嚴寒の節には戶外では殆んど出来ないもので、屋内普通教室を使つてゐる。然かし、其の場合には常に多くの窓を開放して外氣の流通を計つてゐる。勿論冬季に於て防寒具を用ひしむる事としてである。

次に特殊の顧慮として、(之は次の行事の所にくわしく述べるのであるが、毎

日定刻に一定度の深呼吸を課し其他の遊戯中、作業中にも各自に隨意に行はしめる様に奨励してゐる。毎週に行ふ遠足の如きもなるべく異りたる山林又は海濱中に連れ行きて浩然の氣を養ひつゝ、此の方面の顧慮をも合せ望んでゐるのである。

醫師の言に依れば、一般に海邊よりも山地殊に高山に於てオゾンの量は豊富であると言つてゐるし、實際に於てのフエリエンコロニーの成績に見るも明かであるが、今の處それは不可能であるらしい。然し將來を期して山地に於けるかゝる施設の完成せん事を祈るものである。

二、日光

空氣も日光も共に如何なる健康者でも必須不可缺の保健要件であるが、殊に結核性のもの、無力性のもの、腺病質のもの等の虚弱者には、更に最も重要なものゝ一つである。何即ち、人は日光に直接觸るゝ事に依つて血液成分、血色

素に良好の變化を與へ、諸種の病原菌は滅盡する事が出来るのみならず、一般的生理機能に刺戟を與へて其の機能を促進する事が出来るのである。

其他精神的に言つても、陰鬱なる室内に居ては氣分も次第に沈み勝ちになり、従つて生理作用各般の滯滞を來たし漸次に體力の衰退を來たす許りである。之に反して、綠草生ひ、樹蔭ある日光中にて、先づ快活なる氣分の本に嬉戲する事に依つて其他の事は抜きにしても、精神のみでさえ凡ての生理機能を促進し次第に健全に向ふは誠に明白なる而かも著しき事實である。

而して前述せし如き恐るべき殺菌力を有するてふ紫外線も、水蒸氣、塵埃其他の不純物の含有に依つて吸収せられ或は妨害せられるが故に、大都會地は勿論池沼海濱よりも然らざる所、殊に山地に於て十分の効果を表はす事は明かである。

(イ)日常生活に於ける一般 顧慮

此の方面については主として放課時間、遊戯時間、戸外露天の學習等に依つて充分に日光に浴する事が出来る。がしかし、雨天、暴風雨冬季等で教授其他に戸外を利用する事が出来ないのは致し方がない。けれども、温かい日光のほか／＼と照る日などに、多くの子供等がシャツ一つになつて懸命に作業する時の光景は祝福したい——彼等のために——様な氣持になるのである。

(ロ)特殊の顧慮

秋冬の季節に、稀に日光の輝やき出づる時などは勉めて繰り合せて郊外教授に導き出す様にする。

又夏季になると水泳の不可なる子供は勿論、他の一般兒童も努めて海濱の松原の中で海氣浴をなさしめ、又裸體になつて日光浴を行はしめるのであるが、子供等は非常に喜んでやるのである。

三、運動

運動が吾人の健康のために如何に重要であるかは幼童に至る迄で之を知る所であるが、色々の事情の異なる各個人に於て各自、最も適當なる運動量はどれだけであるか。更に此の體質、此の體格、此の遺傳或は性格等の人に如何様なる又は如何程の運動が必要であるかと言ふ事を實際上、正しく指示し得る人は殆んどないと思ふ。吾人は勿論學者と雖も困難であらう。それ故に、吾人の如き實際家に取つては比較、科學化されたる常識的知識が最も有力の指針となつて實際上の取るべき道を指示して呉れる。即ち運動は適度なるべし。運動の適度なるか否かは疲勞の有無に依つて判定する事が出来る。疲勞の有無は大體は、各自の疲勞の感に依つて知る事が出来るのである。

然かし、尙一層、正確に知らうとする爲には、各種の疲勞測定器に依つて或る一定度の運動に依る疲勞度を測定する事が出来る。然かし一々の運動につきて毎日之を測定する事は困難でもあるし、實際上出来ない相談である。而かも

かく一々測つた所で實際上には勞力に比例して、さう大して利益のあるものではないのである。

だからして、若し測定するとしても、最初に二三回測つて平均し、爾後は其の結果より類推して之を適用し同時に兒童の様々の疲勞徴候を見る事が最も好いと思ふ。

兒童の疲勞の感じと、教師の徴候看破は實際上最も確かなる信證を提出するものである。

然し、兒童は好く面白き仕事又は遊戯に於ては、全く無中になつて覺えず其の度を過ぎるものであるが、そこは堪能なる實際教育家は、目敏くそれを看抜いて適當の處置をしてやらなければならぬ。尙、疲勞の感が自身に起り始めた時が運動は最も適度で止め時であるが、同一作業又は運動を何回も繰り返へす事に依つて其れを感じる迄の時間が延長する傾向があるのであるが、之に依つ

て人は、務を繼續する可能と忍耐とが助長され、又同時に其れの技術的堪能を獲得する事が出来るのであると思ふ。

私共の該教養の經驗に依れば、放課時間の自由遊戯及作業、往復の途中に於ける乗車、歩行より、正課の體操、遠足、郊外教授、海水浴等をなさしめるのであるからして、時に依ると虚弱兒のためには多少過多に亘る事があるのである。殊に、私は始めの一ヶ月程は彼等に諸種の積極的運動の機會を成るべく多く與へる事を計劃したのであるが、彼等の中の或る者は却つて身體的減退の傾向があつたので（之れは外にそれらしい原因がなかつたので）よく調べて見ると、どうも疲勞の結果らしいのである。睡眠、食事、其他身體的に何等の異狀を認めなかつたのですからそれに違ひないと思つて居ますが、其れ以後は斯かる體質の弱い子供に對しては寧ろ消極的な保健とか衛生的の方面に最も主力を注ぎ、たとひ運動をさせるについてもそれは前の如く體力を増進すると言ふ意味

よりも、「體力を減退しない様に保護するために」と言ふ様に變つて來たのである。そして之は薄弱兒の體育法としては最も重要な點である事を知り得たのである。

よく體操あたりの専門家が信じて居る如く、體操（又は運動さへすれば身體が丈夫になる様に思つて居る事は極めて淺薄な見方であつて、未だ其處には様々の問題が残されてゐるのである。消極的の方面の體育と言へば如何にも姑息な老人じみた體育の様に聞えるかも知れないが、之も實は間接的健康増進であり、あらゆる體育法の根基であり礎である。この意味に於て、彼等虚弱兒は勿論、普通の健康兒でさへ斯かる意味の體育法の方が、より積極的であると言ひ得るのである。

更に、斯かる虚弱兒が今迄都會地の學校、それは狹隘で非衛生的の環境を持ち、而かも多くの健康兒のために壓せられ勝ちな所では多く、無精で、臆病で

運動嫌ひであるからして、此の様な野外の學舎に來ては先づ彼等を活潑で元氣よく、運動好きに仕込まなくてはならないと心配する人々もあるだらうと思ふがそれは全く不要の配慮である。何故なれば、彼等と雖も此の様に廣い、氣持ちのよい、空氣や日光の清く且つ豊かな所に來ては、もう自づと躍動し出でなければならぬ様に或物に促がされるのである。却つて、あまり過ぎはしないだらうかと思はれる程よくやるものである。

茲では何等運動と言つて別にやらなくとも、生理的機能が促進されるからしてお腹のすくのは妙である。

よく市部から遊びに、又は參觀に來られた人々に本學舎の御飯を出すとして別に御馳走はない、子供等の食事と同じ材料で恐らく其れ等の人々の常食よりも遙かにますい物であるのに——非常に甘いと言つて舌鼓して食べて呉れるのである。未だ邪氣や遠慮のない子供の連中でも頻りに賞美してゐるのでも分る

が、以て環境の生理機能に及ぼす影響を知る事が出来る。

最後に毎週一回宛行ふ遠足であるが、之れは毎日のそれよりも稍多い運動量を豫想しなければならぬのであるが、然かし。別に大差はなく且つ體育上より見ても情思の鍛錬と言ふ方面から見ても、極めて重要な事である。其他夏季の海水浴も又同様である。

四、睡眠

世人多くは、人の生存する爲には食事が最も主要なる物の様に思つて居るが之は大なる誤謬である。

彼のフングの言へる如く、『睡眠は食物より一層必要にして、人は飢餓よりも睡眠せざる事に依つて更に速かに死す』と。眞に然うであらうと思ふ。多くの學者の説も之に一致して居る様であるが、單に之を吾人の經驗に徴するも明である。嘗て私が胃腸を病んだ時、三日間絶食をした事があるが、元氣が稍衰へ

たけれどもやはり學校には通學して普通の授業を済まして来たのであるが、頭腦は却つて前よりも透徹して来た様な感があるのである。

其後、何かの急の用事のため、一日一夜一睡もせず仕事に續けたのでありますが、其の翌日は、一日中身體が疲れて居て頭の働らきも至つて遲鈍で無感覺ではないかと思はれる程ぼんやりして居た。そして、『後二日も同様の事が續いたら、とても命も續くまい』と思つた程である。ワイハルト氏に依れば、之れ畢竟ケノトキシシ(疲勞毒素)が蓄積したのである。そして睡眠は其の物質をば消滅せしめ心身の英氣を回復するものであると言つて居る。

以上睡眠の極めて大切なる所以は大體明かになつたのであるが、次に、然らば人は果たして幾何の睡眠、何時間の睡眠を爲せばよいのであるかが問題である。

普通大人の睡眠時間は大體一日の三分の一即ち約八時間位であると言はれて

居るが、然らば學齡期の子供は、どれ程眠ればよいのであらうか。

今左に、アキゼルケー氏の標準睡眠時間を擧げると、

年 齡	睡眠時間
六 歳——七 歳	十一時間
七 歳——八 歳	十一時間
八 歳——九 歳	十一時間
九 歳——十 歳	十時間半
十 歳——十一歳	十時間
十一歳——十二歳	十時間
十二歳——十三歳	十時間
十三歳——十四歳	九時間半

以上の表は大體吾人の參考として有力なものであるが、各個人の體格、體質

の強弱、疲勞の程度等に依つて其の眠りの時間を如何に斟酌すべきか、又睡眠の深さと時間との關係を如何に見、如何に適用すべきかは、實際上一々特殊の顧慮をなさなければならぬ所であるが、一般的に言へば、身體の薄弱な子供等、殊に毎日の自然的運動の結果が都市の學校に於けるより稍多いとすれば一層此の睡眠時間をば前述の標準よりも半時間乃至一時間延長しなければならぬのである。何故なれば前述の夫れは普通健康兒のための標準であるからである。我が學舎に收容した子供は十歳から十二歳迄であるからして前表に依れば十時間、それに尙、虚弱兒であるから少くとも十時間半乃至十一時間を休まなくてはならないので其の標準に合ふ様に適用した。個人に依つて多少の手心をした事は勿論である。

其地、晝食後には、常に一時間乃至一時間半の午睡を課し、一年中の日中の長短に依つて之を伸縮した。之は茲では非常に重大な日課の一つにしてある。

稍強制的と思はれる程、眠くない子供でも靜かに、目と口とを閉ぢて安臥さす様にした。午睡室の公定規則は左の通りである。

- (1) 此所では皆靜かに休ませう。
 - (2) 眠くない人でも口と眼をとぢて安臥やすみませう。
 - (3) 眠る子供は豪い子供です。
 - (4) 便所に行き度くなつたら足音立てずに出ませう。
- 之は毎回靜に讀んで一層明瞭に自覺を喚起してやすませる様にしてゐる。更に、この午睡を重要規する點は、彼等が活動し過ぎて却つて不結果を來たす様な事が起り勝ちであるので、その抑制てふ消極的意味も含まれてゐるのである。

朝早くから夕方まで止めて置く、而かも子供は斷へず活動して息まない餘程疲勞しても止めないものである。昨年最初の經驗に見るも多少過勞の嫌ひが

ないでもなかつたからである。

最後に、今一つ重要な理由は、之の事をば一種の、體育否該教養に於ける森嚴なるオーソリチーを持つた、宗教に於ける祈禱會の如きものに仕たいと思つてゐる。即ち極めて自由なる間に一種の不可犯の精神統一を要求し、あらゆる純粹活動の中に、頭髮一つをも動かさない様な嚴肅な純靜的氣分を味はしめたいと思ふ希望の一表現に外ならぬのである。

兒童、特に都會の兒童は色々の關係からして一般にがさ／＼してゐて落ち着きがない。何處となく、どつしりした底力と言ふか、態度と言ふか、に乏しい様に思はれる。而かも此れは人間に取つて基だ重要な事に屬するのであるからして、かゝる純靜的の一面に依つて全精神界を統一し、品性陶冶の一助にもと思つてゐるのである。かくして午睡を課する事に依つて、從來輕視されて居た所の午後の課業も其の能率を充分に上げ得るのである。午前の終りよりも却

つて難物視されてゐる學科を課しても差支へないのである。

斯くして兒童等の一日中の睡眠時間は十時間乃至十二時間となるのである。

然かし、通學する兒童は私共の元にないのであるから或は理想的に、而かも安靜なる睡眠が得られないだらうと思つてゐるが、成るべく斯かる重要な點は父兄とも打ち合せをなし、科學的に行ける様に努めてゐる。

五、食物

本教養に於て食物が如何に重大なる要件であるかは明白の事であるが、重大であればあるだけ、之れが攝取に其の宜しきを得なければ大變な蹉跌となる事は争ふべからざる事である。然らば、食物攝取には如何なる方法的顧慮が肝要であるかを研究する事は大に意味あることである。然かし、之れも一概に論じ去る事は出来ない。何故なれば、彼等には各自に異つた嗜好、習慣、年齢、體質、等に應じて食品の品質及び分量、等を巨細に決定しなければならぬからで

ある。殊に多數同時に同じ賄ひで食事する事になれば一層細心の注意をしなければならぬ。今吾人の懐抱する意見及び注意事項を列挙するならば、

(1) 飲用水の水質及び附近の衛生状態

先づ飲料水の良否を判別するには、理學的検査に依つて温度、清濁の度、色臭氣、味、硬度等を知り、化學的検査に依つて、有機質、クロール、アムモニア、亞硝酸、硝酸、硫酸、カルシウム、マグネシウム、炭酸、硫化水素、磷酸石灰、苦土、金屬を檢し、其他顯微鏡及び細菌學的検査に依つて下等動植物の有無と細菌の數とを検査する事が肝要である。我が學舎では市の衛生研究所に依頼して證明して貰つたのである。

次に、其の附近の状態が非衛生的であるならば其れは止した方が好いのである。即ち、水質悪しき事、十種の傳染病、其他の疾病の良く流行する土地なる事、土地濕潤にして日光よく當らず、通風其他の宜しからざる場合には、詳細

考慮の末斯様な土地を避けなければならぬ。

以上は稍科學的検査に依つての議論であるが、大自然の靈妙さは到底科學の及ばない部面を有するものである。此の意味に於て、その附近の土地の住民が一般に頑健であつて長壽を保つもの多い（平均して他の地方よりも）と言ふ常識的見解を參酌する事も亦必要缺くべからざる事柄である。何故ならば、たとひそれは説明出來ずともどの點かに健康に適し長壽を助成すべき何物かと存在するが爲であると思ふべき充分の理由があるのである。それは何等かの自然的な衛生的條件が土地の人々の身體組織に良好の影響を與ふるものと思はれるからである。

(2) 飲食物の品質

食品の品質の制定は凡てに涉つて之を闡明する事は稍困難であり、又實際上左程必要でないものも有る様であるからして、吾人日常の食品中最も普通であ

つて、且つ容易に傳染病や、急性腸胃加答兒、中毒等を起し易いものは肉類と野菜類であるからして次に之れ等の品につきて概言すれば次の様である。

先づ食品の新舊を判別する事は大切な事であるが、鳥獸の肉類に付いて言ふならば、新鮮なる肉は、質實にして彈性に富み指頭で壓しても直ちに痕を消失する、粘着性、變色、萎靡なく、古い肉は之に反してゐる。就中、營養價も他に劣らずして消化吸収性の最も多いのは魚肉であるからして食品としては最も適當であるが、魚肉の新鮮のものは、やはり肉堅に、彈性ありて惡臭なく、鰓は赤色、眼球は透明にして隆起し光澤あり、鱗は固着するものである。野菜は貴重なる食品なるも往々にして肥料河水等灌注により生育する結果、寄生蟲傳染病原體を附着する危険あれば、生のまゝで食膳に上する事の不可なるは明である。此れの新鮮と否とは一見甚だ明かなれば記述を省く事にする。(田所氏食品化學參照)

(3) 營養價

例飲食物の營養價を計量して、兒童の年齢、體重、及び消化管の收縮面積に比して攝取せしむる事が肝要である。今其の營養價の計量法を擧げよう。

(イ) 體重に依つて營養量を算出する方法

飲食物は其の熱量(カロリー)を算出して各個人の年齢、體重に適應する營養價を攝取しなければならぬ。

専門家の説に依れば、七歳乃至十歳、十歳乃至十四歳の兒童の一日に要するカロリーは、

七歳乃至十歳(體重肝につき)

男子

五七・二カロリー

女子

六一・六カロリー

十歳乃至十四歳(同上)

男子 五一・四カロリー
女子 四七・三カロリー

而して食物各要素の含有カロリーの量は、

蛋白質一瓦 四・一カロリー

脂肪一瓦 九・三カロリー

含水炭素一瓦 四・一カロリー

であるからして各食品につきての營養價表に照して其の適量を算出する事が出来るのである。(營養價表の主なるものは、本學舎主任校醫小田俊三博士の著「野外學校の理論と實際」に掲載しあればつきて参照されん事を望む)

從來の吾人の經驗に依れば、主として、十歳十一歳十二歳の兒童を教養したのであるからして、その實際の體重を見ると最低、四貫五百匁位から最高八貫六百匁位の間で平均六貫五六匁位であつたのであるが、之に依つて私の算定

したものに依れば大體一千二百三〇〇カロリーから一千五百六〇〇カロリーを與ふれば良い勘定になるのである。勿論、攝取すべきカロリーは吸収するカロリーの量よりも、稍多くなければならないのであるから實際は幾分か多きを要するのである。

次に、熱量の總量は前述の標準前後で給すれば善いのであるが、食物の三要素の量の關係を如何様に見るべきかが問題であるが此れに關しては、假りに、今本邦大人體重七十基瓦が攝取すべき各要素量の關係を擧げれば。

蛋白質	九六一一〇〇瓦	} 二四二四—二四四五
脂肪	二〇〇瓦	
含水炭素	四五〇瓦	
	……………	
		カロリー

又、フォイト氏の保健食量を標準として日本人に換算した所に依ると

蛋白質	九四 (利用八四) 瓦	二四四五カロリー、
脂肪二〇瓦	利用二二五〇カロリー
含水炭素四七五瓦	

であつて、九歳乃至十三四歳の子供は大體大人の場合の五分の三、乃至三分の二である (アウトウォウター氏に據る) からして、子供のに換算すれば凡そ次の様になる。

蛋白質	五六—六六瓦.....
脂肪	一一—一四瓦.....
含水炭素	二七〇—三一六瓦

大體此の標準を餘り甚だしく前後しない程度に於て給して行けばよいのである。

尚、其他の要素として、ビタミンも之を含める食品を取らしむべきであ

る。即ち乳脂、卵、動物脂肪、野菜の新らしきもの、果實等をも時々與へなければならぬ。

(ロ) ネム法 之は彼のビルケの最近の研究にかゝるものであつて、彼に依れば、攝取せられたる食餌の量は腸面積の大小に比例すとの見地からして、腸面積を標準として算出したのである、而して此の腸面積は凡そ坐高の自乗に等しいのであるからして、此の座高 (坐時の床上より顛頂部迄の高さ) を計れば、直ちに算出する事が出来る。ネムとは本法特有の熱の標準であつて酸化作用に依つて六百六十七小カロリーを遊離すべき牛乳一瓦を言ふのであるが、氏は、年長時の腸の一平方仙米突につき十分の七「ネム」が最も適當であると言つて居る。此の法に據れば

蛋白質	動物性蛋白質 (一瓦) 六「ネム」
植物性蛋白質	(一瓦) 四—五「ネム」

脂 肪

(一瓦)一三—二三、五「ネム」

含水炭素

(一瓦)五、五—六「ネム」

である。が此の法に依るも食品の分析表を用意して置く必要があるのである。
(小田氏著書に據る)

此の方法も大體に於て妥當であると言ひ得るし、結構な方法で實際家にとつては非常な便利なものであると思はれる。然かし、精密に言ふならば此れは彼の歐米人に妥當であるからと言つて直ちに、我日本人にも其儘適用して誤りがないと果して言へるであらうか。何即、彼の歐米人は肉食人種であつて我日本人は草食人種である。而かも其の何れもが昨今始まつたのではなく、歴史的に古くから人種的傳統として今日に及んで居るので有るからして、動物學上、一般に草食獸が肉食獸に比して遙かに長き腸を有するは事顯著なる事實である以上、内外人の間に可なりの差違、従つて腸面積に廣狹が有り坐高と夫れとの割合も多少の變動を來すべきは明かである。のみならず、坐高は割合に高く従つて腸面積は大であるとしても、それと體重とは必づしも正比例するものではないのであるが、坐高さへ等しければ肥滿して體重の重い人も、瘦せて軽い人も同様の食量を取るべきであらうか、それで生理的に何等の不都合の生せない事が證明せられて居るのであらうか、此の點が吾人には不審であり、同時に不安の存する所である。即ち此の法は實際上大體の所を指示し得る事は非常な便利であるが、今少し研究して實行するの必要があるでは無からうかと思ふ

(四)消化吸收率及び嗜好

更に考慮すべきは、食品の消化吸收率である。其の率は様々であらうが、然かし攝取したる食物の全部が吸収せられる事は決してないのであるからして、前表に示すが如き標準よりも、稍多量に取り入れなければならぬのである。例へば、表に一四〇〇カロリーを攝取すべきであると表はれ居れば、實際には一

四〇〇、乃至、一五〇〇、を給せねばならぬと思ふ。然かし、餘りに多過ぎる時は消化器を害し體を弱める事は確かである。

又煮沸せるものと、生の物との熱容量は多少變化すべきであるから、此の點にも多少の顧慮を要する。

近年頻りに醫家又は各種の營養研究所等に於て唱導せられて居た所の玄米食の如きも、其の理論を聞くならば誰しも感心せないものは無いのであるが、實際に此れ計りを食ふかと言ふ事になると、其の不味なる事、有臭な事、炊ぎ方を餘程研究せなければならぬ。其の他多くの事情のために何人もその實行を躊躇するのである。私も早くから此れに疑義を挿んで居たのであるが、偶々、本年の一月中旬頃かと思ふが、東京營養研究所から新聞紙上に發表した所を見ると、『玄米は實に勝れた要素を含んで居るのであるが、實は玄米飯は其の消化吸収率が著しく低いので、やはり、元の白米飯が最も好いのである』と言ふ意

味の發表が出て居たのであるが、其の論からすれば、米糠の含有せるグイタミンや脂肪、燐等は餘儀なく他の消化吸収の容易なる食品から取らなければならぬ事になる譯である（此の點に關しては文部省からの就學兒童保護施設の研究中に委しければ略す）

次に、食餌の攝取上前述の諸要件に勝る其劣らない力を持つて居るものは、食品に對する各個人の嗜好及び習慣性であると思ふ。何故なれば、其の人の甚だ嗜好して居る食物ならば其の營養價に於て多少他の食品に劣つて居るとしても、不思議に良く消化し吸収して却つて實際の滋養分となる事が甚だ多いのである。殊に病氣などの場合、醫者に依つて嚴禁されて居る様な其の病氣に對して毒になる様なものを、最もひどく其の病人が嗜好して居る様な場合、それを與へ食せしむる事に由つて、何等の中毒作用を超さないのみならず、却つて時には毒が薬に變じて病氣が快癒すると言ふ様な例も少くないのである。勿論凡

ての場合にそうだとは言はないのであるが、如何に主観的觀念力が醫學、生理學、化學、藥學等を超越して吾人の身體を左右する不可思議力を有するものであるかてふ事の一面の反證であることは充分であると思ふ。

兎に角孰れにせよ、食餌上に於て各人の嗜好が重大なる影響を及ぼすか否かである。

それ故に、實際上食物の選擇をなすには二者同等の營養價を有する場合には、其中の嗜好品を選ぶべきは勿論、嗜好物が多少劣りたる場合と雖も其れを選擇すべきは其の宜しきを得たる方法であると思ふ。但し、嗜好品が甚だしく身體に害を有すると言ふ事が自明である場合は例外の外は之を避くべく努むべきであると思ふ。

かく言へば、或は反對する人も有るだらうと思ふ。即ち『人の體格、體質と、實際攝取せる食物の偏否廣狹、嗜好の偏倚とは相互に因果的關係をなして居る

が故に嗜好の一方に偏して選食する時は益々其の弱點又は缺點を助長するからして、成るべく廣い範圍の食物を採らなければならぬ』と、

吾人は之に對しては、或意味に於て全々同感であるとも思はれる。即ち正當の議論として肯定するものであるが、然かし吾人の主張は反對者の考ふるが如く嗜好一元論ではない。而して、其の嗜好し得る範圍を漸次擴大して行く事は、身體上からも、經濟上、或は交際上からも大切であるのみならず、多かれ少なかれ其の人の品性にも關係して來る様になるのである。

吾人の眞意を單的に言ふならば、食物は只据えて置いて眺めたり、飾りにしたりする物ではなくて、生きた感情の持主、個性及び、各別の習慣を持ちたる（即ち好惡兩様のものを多分に持った）具體的個人が食ふものであるからして、徒らに、客觀的一面、即ち純科學的、分析的に凡てを律しようとする捕らはれたる醫家や科學者に反對する迄である。人間は一面感情の動物であり、主観的

精神的存在である以上、其の食品は、單なる物理化學的、生理的方面のみから之を決定するは不當であつて、他の重要な、主觀的感情的方面に留意すべき事を強調した迄である。

(五) 地方的經濟的事情

上述の諸問題は純理的に極めて大切な事項であるが、吾人は單に斯かる營養上の問題のみならず、又、地方的經濟的事情が實際上有力な決定法を與へる場合が極めて多いのであるからして此の方面の考察も甚だ意味ある事であると思ふ。此に關しては詳論する暇がないので左に項目を列擧するに止め様と思ふ。

(1) 成るべく近傍の土地の生産物を用ふる事は必要である。何即、近地生産のものは比較的新鮮であつて、價格は低廉に、且つ其の土地の住民の身體に適合せるもの多く、其他にも様々の便宜が有るからである。

(2) 生産季節内に在るもの、これは季節内のものは價格安價にして、其の季節

中の食物として適當して居るからである。

(3) 調理上に複雑なる手間を要し、多くの人手又は費用を要するものは避くべきである。

(4) 其人の嗜好、習慣等を顧慮する事。

(5) 單調食を避け混食をなす事、此れは調理上からも重要な事である。歐米人は肉を常食とし、本邦人は米穀を食す。今假りに、其の長短相半ばするとするも、何れも其の國の風土、氣候、及び何千年來の歴史的傳統的風習、嗜好等の相集つて規定されて來た自然的結果である以上之を全々變更する事は様々の點から考へて宜しくないと思ふのである。いづれにしても偏食は不可である。吾人は思ふ、『我等日本人は米穀(菜食)を以て主食となし、肉食を以て副とすべきである』と。

食品は、實に人間の精神界の發展、神經系統、氣質等に大なる影響ありと主

張する人も可成り有る様であるが、事實上承認すべき事柄が少くない様に思ふ。彼のロービツヒ氏は言ふ。兇猛なる野獸を馴らさんとせば、肉食を加味するに如かずと。或は、肉食者は、兇猛殘忍性に富み感情強く、活動的で考察は直覺的で睡眠には入り易く、又、胸線は發達し肉欲旺盛で發見的能力に勝ると言ひ。一方菜食者は、之に反して、愛情に富み溫順にして忍耐力強く、克己、自省力、推理的、哲學的材能に優るなど言はれてゐる。之等は面白い研究問題であると思ふ。

(6) 食物の貯藏に便なる事。

(7) 氣候風土に適せるもの、例へば寒地、冬季に肉食、暖地暖節に菜食を主とするが如し。

(8) 日々の食事に變化をつける事。之は單に食時に於ける味を増すのみならず、消化吸收の力をも催進する傾向が生ずるからである。

(六) 間食問題

活動は兒童の本性にして、終日嬉戯して活動する兒童等に取りては、少量の間食を與ふる事は寧ろ必要である、即ち之を與ふる事に依つて彼等に取つては可成り長く感ぜらるる定食間の間隙の飢餓を醫し、精神上に於ても幾分疲勞を休め退屈を防ぐ、即ち精神を一新せしむる効果があるのである。然し乍ら、之が方法に於て、往々、食品の選擇其の分量、與ふる時間等の顧慮を誤り易く、従つて實際に於ては有害無益に終る事が極めて多いのである。次に注意すべき二三項を載せて見ようと思ふ。

(A) 種類、間食は營養のみが目的ではないのであるからして、成るべく消化し易く、極くあつさりした、兒童等の嗜好品を、與ふるが好いのである。

糖分や脂肪等を多く含んで居るものは宜しくない。更に間食は日々新たなる趣向に依つて變化ある與へ方をしなければならぬ(後參表照)

(B) 分量與ふべき一回の分量は、出来るだけ多[○]く[○]ない[○]様[○]にする方がよい。多[○]いと定食の食欲を減損する事が夥[○]いので、かくては却つて害が残るだけであるからである。即ち大切な營養を充分攝取し得ず而かも、消化器を害する事が多いからである。消化器の弱い又虚弱兒のためには間食の習慣を漸減して遂に全くやらなくなる迄に導びく事が大切である。私の方では毎日定刻に、直径三寸四五分位の浅い皿に餘り盛らなくて其してやる様にしてあるが、従來はこれで大なる不都合を感じなかつた。

普通の錢餅ならば四—六枚位、小形のビスケットで七—十個位、の所である
(C) 與ふる時間及び度数

普通にやる夏季のフエリエンコロニーなどでは午前と午後と二回に支給して居る所も有る様であるが、常設的な本學舎になると年中毎日二回宛與へる事は、經濟的にも許されぬ事であるのみならず、冬季の日の短かい時などは却つ

て與へぬ方が良[○]とい思はれるので、私共の方では特別の場合の外は冬季は與へぬ事として其の他の季節には一日午後一回上述の方法で與へる様にして居るのである。午前中與ふる事は割合に頭の良い朝の正課の教授を幾分割かねばならぬ事であるから之は避けてゐる。勿論休憩時間に與へられぬ事もないが、短かい時間に忙がはしく與へたからとて大して精神上の轉回にも滋養にも、ならぬ事であるし、且つ實際上甚だ困難だからである。

それから、一般都市兒童は田舎の子供よりも運動する事の少ない割合に、却つて間食が多いと言ふ事である。之は又重要な考察點で有る。私の考へでは子供は元來甘いものが好[○]きであるのに、向ひも隣りもお菓子屋であるとか、少くとも餘り便利が良過[○]ぎる事と、子供の本性たる活動性、遊戯欲に満足を與ふる事が出来ないため手持不沙汰のため、ついお菓子が欲しくなるのではないかと思ふ。田舎では便利も悪い上に廣い野原を面白く馳せ歩いてゐるために、それ

を思ひ出す時間がなく、漸やく疲れを覚えて歸れば、もう夕御飯だと言ふ有様で食欲も進むし従つて健康になるのではあるまいか。

そうして、彼等が間食をやるのにしても、都會なれば一層父母は忙がしかつたり何かで、その分量や、種類や時間等も規則的にのみ實際やつて行けない。斯様に習慣化せる間食からして、定食もまづ、可成りの小言を並べた上でなければ箸を取らない様になり、遂に胃腸は害され、齲齒は生じ、神経作用も不敏活となり體格體質は次第に薄弱化の道程を急ぐに至るのである。

従來私の預かつた子供について、齲齒、胃腸病の有るものの間食状態を調べた事があつたが、其中の大部分は間食を不規則的に取つた者であつたのである。

(七)食費及び献立

以上は概して、理想的方面を取扱つて來たのであるが、實際上食品を選択決定する主要の因子又は原理は食費の多少に在るのである。

寧ろ或る意味からは、一定の與へられたる食費の範圍内に於て、營養其他の諸考慮を費やして然る後決定すべきものとも言はれるのである。尙ほ更らに、其の地方的の生産物、少くとも毎日容易に求め得る食品に限りがあり、且つ物價も市場等の設備のない地方では割合に高價に買求めなければならなかつたりして、従つて實際上の献立は各種各様であつて而かも理想的には行き難いものである。それ故に他所で立てた献立は多少の参考にはなるが、全々之を模倣する事は間違ひである。

今、我學舎従來の食費たる一日額六十錢乃至七十錢(間食費も含む)の範圍内で選定實行した献立を参考のため左に掲げて見ようと思ふ。勿論之は決して理想的なものではなく尙段々と改善しなければならぬものである。

月 食		日 事																							
		朝	昼	夕	間	大凡の總																			
8	7	6	5	4	3	2	1	朝	食	昼	食	夕	食	間	食	千四百									
鉄の味噌汁、澤庵漬	味噌汁、梅干、ラッキョ	味噌汁、福神漬	青葱味噌汁、澤庵漬	蒲鉾椎茸の煮付、茄子漬	胡瓜の酢もの、鯨煮付、澤庵漬	天鉄羅、蓮根の煮付、澤庵漬	馬鈴薯、茄子煮、澤庵漬	握飯、奈良漬、梅干(遠足)	鯨フライ、蓮根煮付、澤庵漬	卵の巻焼、オロシ大根、茄子漬	鯛の道明寺、生姜煮、澤庵漬	キス鹽焼、トウロク豆煮、梅干	鯨付焼、馬鈴薯、奈良漬	鮭の焼物、瓜漬、澤庵漬	握飯、奈良漬、澤庵漬(遠足)	鯛、スシ、澤庵漬	鯛、椎茸の胡麻アヘ、味噌漬	鯛素麵煮、澤庵漬	牛蒡天鉄羅、澤庵漬	玉子巻、澤庵漬	馬鈴薯、茄子煮、澤庵漬	豆腐の味噌汁	奈良漬		
鉄の味噌汁、澤庵漬	鉄の味噌汁、瓜漬	蒲鉾、白瓜漬	高野豆腐煮付、奈良漬	キャベツ味噌汁、茄漬	ツキ味噌汁、ラッキョ	卵の味噌汁、瓜漬	葱の味噌汁、澤庵漬	豆腐味噌汁、茄子漬	青葱味噌汁、澤庵漬	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、天鉄羅、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵
梨	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ
千五百	千六百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百

◎食事献立表及間食表(大正十一年九月作製)

第三編 第二章 教養方法

月 食		日 事																							
		朝	昼	夕	間	大凡の總																			
19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	朝	食	昼	食	夕	食	間	食	千四百						
豆腐の味噌汁	鉄の味噌汁、瓜漬	蒲鉾、白瓜漬	高野豆腐煮付、奈良漬	キャベツ味噌汁、茄漬	ツキ味噌汁、ラッキョ	卵の味噌汁、瓜漬	葱の味噌汁、澤庵漬	豆腐味噌汁、茄子漬	青葱味噌汁、澤庵漬	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、天鉄羅、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	
豆腐の味噌汁	鉄の味噌汁、瓜漬	蒲鉾、白瓜漬	高野豆腐煮付、奈良漬	キャベツ味噌汁、茄漬	ツキ味噌汁、ラッキョ	卵の味噌汁、瓜漬	葱の味噌汁、澤庵漬	豆腐味噌汁、茄子漬	青葱味噌汁、澤庵漬	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、天鉄羅、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	味噌汁、梅干、卵	
梨	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ	ブドウ
千六百	千四百	千五百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百	千七百

第三編 第二章 教養方法

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20
高野湯葉味噌汁、茄子漬	卵、味噌汁、ラツキヨ	葱の味噌汁、梅干	蒲鉾、白瓜漬、	駄の味噌汁、ラツキヨ	豆腐味噌汁、梅漬	駄の味噌汁、福神漬	高野豆腐、味噌汁、瓜漬	鹽鱈、葱の味噌汁、澤庵漬	蒲鉾、澤庵漬、	床付海苔、澤庵漬
牛肉玉葱煮付、澤庵漬	鯛煮付、奈良漬、	キントン、小魚、テリ焼、澤庵漬	握飯、梅干、瓜漬(遠足)	煮、澤庵漬	大根、鯛煮物、澤庵漬	牛肉葱煮付、大根漬	鯖の昆布巻き、奈良漬	干瓢、小芋、英豆、煮物、瓜漬	椎茸、玉子吸物、澤庵漬	握飯、梅干、奈良漬(遠足)
鱈フライ、梅干、瓜漬	混合飯、澤庵漬	卵厚焼、野煮付、瓜漬	高野豆腐、鯉煮付、澤庵漬	卵厚焼、高野煮付、瓜漬	南京豆煮、梅漬、澤庵漬	筍、油揚煮付、澤庵漬	雞肉葛入ウド、澤庵漬	肉玉葱の煮物、澤庵漬	鱈フリ焼、茄子の味噌和へ	混合飯、澤庵漬
南京豆	芋アゲ	ドロツア	ビスケット	角餅	味付パン	キャラメル	アンパン	煎餅	ビスケット	バナナ
千七百	千七百	千六百	千七百	千六百	千六百	千五百	千六百	千七百	千六百	千七百

(附)米飯は約一日二百四十匁(九百瓦)乃至三百二十匁(千二百〇瓦)を探らしため(煮たるものの重量)、副食物の重量は日に依つて異なるが、大體七十瓦から八十瓦内外を與へた(汁液を除いたものの重量)右表最下段の總カ
 ロリー中には勿論、米飯や間食も包含して居るのである。

(八)實際食事の情况

(1)定食の場合

(イ)食事中及び前後の心得 此れは全體の兒童に記銘させて、殆んど習慣化的實行を強要して居る。要項は次の様で食堂の眞向ふに大書して掲げてある。

食事の心得

- 一、食事の前後には必ず手を洗ひませう。
- 二、愉快な氣持で食べませう。
- 三、静かに落ちついて食べませう。

四、食べ物は十分よく噛みませう。

五、済んだら静かに安息室やすみのへやへ行きませう。

毎回之を讀まして常に自覺反省を促がしてゐるし、舎生講話の材料としての右の各項を敷衍して聞かしてゐる。

(ロ)方法 午前中の授業後十分乃至十五分にして鈴をならす、(此の間児童は休息及び手洗をなして晝食準備をなす)すると、子供等は食堂隣の控室に列らび、黙約にて順次食卓につく、やがて児童役員が中央に立つて一齊に心得書きを讀ましめ間違ひ、反則の有る者はそれを實行せしめ、然る後、各自に挨拶して箸を取る。教師も皆同室で食事をする。そして、教師或は児童の有志者をして、極くあつさりした、お嘶や、一口嘶、唱歌(童謡)等をなす時が多い。此れ氣分轉換をなさんがためである。そして食事が済めば鈴々おちぎして手を洗ひ安息室へ行く事になつて居る。時には、私にわざ／＼『先生何杯食べましたよ』

と得意氣に語つて行く者もある。食欲の進んだのが何となく嬉しいのである。前表の如く此所では彼等の家庭の常食に比して遙かに、まづい物を食べるのであるのに、彼等は口口に、『おいしい／＼』を連呼する。斯く食欲も進み、消化もよくなるので、今迄で愛兒の少食に嘆いて居た親でも食量の急増に少なからず驚かされるさうである。

(2)間食の場合 放課になると子供等は青草密生せる廣い運動場で盛んに活動してゐる者、畑で耕やし、水掛け、草引きをやつてゐる人々、可愛い、兎の餌取りに行つてゐる連中もある。やがて、三時半の鈴が鳴ると東側二階の間食堂に車座に集合する。當番の児童や教師は、それに茶のみ茶碗や、お菓子や茶を注いで廻る。當番の合圖で皆一齊に始める。此の間無邪氣な坐談やお伽話、手品、其他様々の室内遊戯が始まる。児童等の告白に依ると何でも、此の時間が一番嬉しい時の一つだそうだ。終れば、又、各自に活氣満ち／＼て元の活動を續

けるのである。

(附)自由遊戯、

子供は自由遊戯の間に於て始めて其の天眞を發揮し、個性を伸展する。活動其物に没頭する事に依つて身體的にも精神的にも様々の尊いものを收得する。子供等より遊戯を取り去る事は如何なる意味からも將來的の枯死であり、彼等生涯の致命傷である。彼等が嬉戯する間に於て其の自然的なる運動に依つて身體方面の向上をなすのみならず、知的にも著しい（然かし明かに之とて取出す事は出来ないのであるが）、進況が表はれ様々の方面の様々の陶冶が出来るのである。

然し乍ら、吾人は、更に、重大なる意味と使命とを遊戯に附與したいものである。即ち遊戯其物が德育品性の上に如何に著大の影響が有るかと言ふ事である。吾人の信する所を以てすれば、之を相當に注意して指導するならば、公正

なる競争心、自由、自律、自治の精神、公平、協同一致、活潑、快活及び進取、忍耐、努力等の諸徳を養成する事が出来る。養成ではなく自然的の蓄積である。

今我が郊外學舎に於て實施し來れる自由遊戯の種類を擧げると、

(1) 自然物を利用するもの

花摘み、蟲捕り、魚釣り、貝拾ひ、土捏ね、石はちき、地面取り、木登り、ブランコ、砂あそび等。

(2) 模倣的又は衝動的なるもの

飯事、雛様事、人形遊、學校事、戦争事、鬼事、兩脚跳躍、幅飛び、高飛び相模、駈くらべ。

(3) 言語又は聽覺的なるもの

發聲に依して人名當て、隣室の人指名、手毬歌、子守歌、童謠、唱歌等。

(4) 練習的のもの

野球、庭球、ピンポン、毬つき、毬投げ、フットボール、デットボール、バスケットボール、キャプテンボール、闘球盤。

(5) 手工的のもの

粘土細工、土人形、紙人形、笹舟、小鐵砲等。

遊戯に倦み、且つ疲勞せるもの、又は其の日の氣分宜しからざるものは、樹下の椅子上又はハンモックにて安息したり、讀書したりする事になつて居る。

第七節 行事表について

月^〇中^〇行^〇事 從來の本學舎の教養期間は每期一ヶ月宛としたので、一まとまりの行事を月に集約せなければならぬ、又此の外に年行事なるものを認めるとしても、單に月行事の集積に過ぎないから茲には略する。

(A) 月始行事

(イ) 入舎式及び父兄児童の舎内巡覽。

(ロ) 學級編成及び諸規定、並びに時間割、日課の發表。

(ハ) 裸體半身寫眞撮影。

(ニ) 身體検査及び生理検査。

(ホ) 精神及び知能検査。

(ヘ) 兒童健康日誌記入法教示。

(ト) 身長體重表、記入法教示。

(チ) 作業及び其他の分團又は指示。

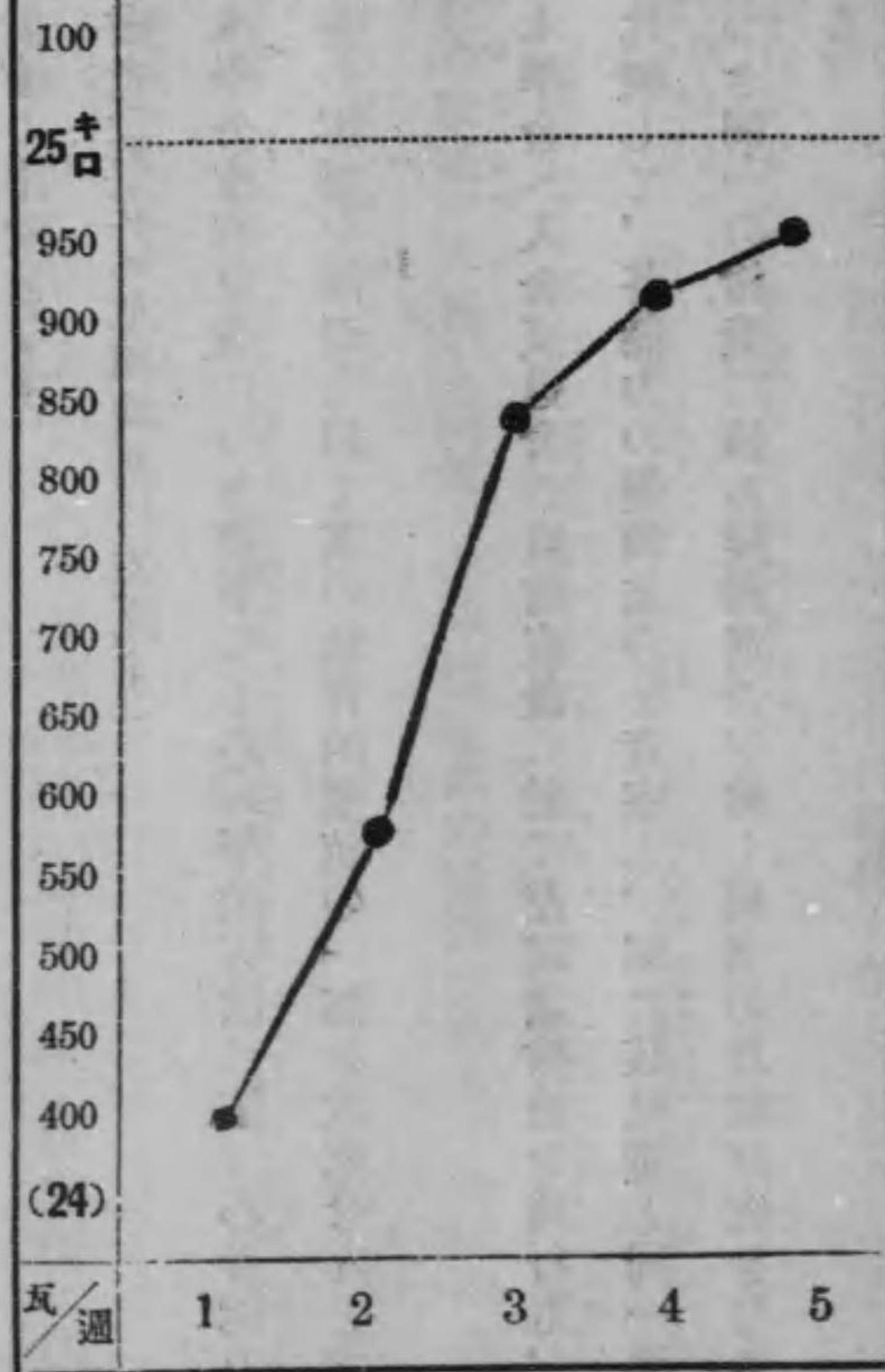
(イ) 入舎式にては、此の施設の趣旨を簡述し、自己の身體の位置に關する自覺を起し、該施設にて教養される事を喜び、徹底的に自覺的に身體を向上する様努むべきを告げ、同時に、學舎内外に對して、充分知悉理解せしむる。

(ハ) 裸體寫眞は入舎退舎の際之を取つて比較するため。此の場合注意すべき

は、寫眞機と兒童との距離を等しくし、其の場所、方向、時刻、天候其他の撮影方法を可成的に同様の條件とする事が必要である。

(ニ)身長、體重、胸圍の計量に於て兒童各自に計量せしむる場合は別で有るが、少くとも其の時のレコードとして残す様な時は、理論的にも實際的にも慎重なる注意と、熟練とを要するのである。理想的には相當に此の方面に長じた人が一人で、各検査をやる上はないが、少くとも分業的にして各方面のみに關しては同一の人が擔當しなくてはならない。若し數人共同して擔當しなければならぬ様な時は、良く巨細の點迄で協議し約束して結束の一齊を計るべきである。最後に、検査前に各計量器をよく檢して置く事が大切である。此れは些細な注意の様に思はれるが、結果の精確を期する上からは極めて重大な事である。殊に體重器の如きは注意を要すると思ふ。

體重記入表 (十一歳)
第五學年 (姓名) 男



(身長胸圍表も之に準ず)

右表は從來使用せるものを簡約せるものであるが、實際に使用せるものは、半分目位の方眼紙を使つて、瓦數の記入も今少し微細の所まで(一目十瓦)記入せられる様にし、検査回数も三十一回にして毎日検査記入の出来る様にした、

尙赤横線は同年齡の男子(又は女子)の體格標準線で之を超過すべく努力する事になつてゐる。

生理検査に關しては、卷末に表示せるもののみについてなせり。學校醫之に當る。在舎前後の比較をなす。

(ホ)精神検査(市立兒童相談所に依託す)

(1)目的 本學舎收容兒童につき簡單なる心理學的方法に依り心身能力上に及ぼす學舎教養の影響を調査し以て其の教育的價値の一部を攻究せんとするものである。

(2)方法 本學舎へ入舎又退舎の直前直後に於て左記諸検査を施行し、以て兩度の成績を比較して、各能力の變動進否を査察し、別に該兒童と同一學年内の他の兒童につき同一の検査に依る變動進否を検し兩者の比較研究をなさんとするものである。

A 抹消検査 一定の觀念を與へ之を腦中に把持し乍ら該觀念を表はす所の文字を抹消する所の作業能力を見るもの。

B 計算能力検査 數の取扱ひ並に計算に關する作業能率を測定せんとするものにして、簡易なる多數の問題を一定時に成るべく正確になさしむるもの。

C 打叩能力検査 手指と視覺との呼應運動の検査である。動能検査用電氣書記板と計數器を用ふ。

D 目測検査 空間知覺能力の精確度を測定するものにして用器は、レーマン氏目測度計を用ふ。

E 知能検査 知能測定をなして、生活年齢と精神年齢との關係に依つて知能率を算定す、(主としてターマン氏法に依る。)

(へ)之は一つは、自覺的體育に至る階梯として、各自の身體狀態に關する系統的自覺を喚起し、一つは教師の側に於て毎日の兒童の健康狀態を一目に知り

且つ其の變化を見んとするものである。記載例左の如し。

健康日誌(姓名)			事項	
3	2	1	日	事項
良	不良	良	睡眠	
三六、六	三七、一	三六、五	體	
三六、六	三七、三	三六、三	朝	
三	二	三	夕	溫
四	三	四	朝	食
四	二	三	晝	量
一回	ナシ	一回	夕	量
	稍頭痛を覺ゆ		便通	
			事故	

右表は各兒童に一枚宛持たせ記載には各兒童之に當る。睡眠とは寢付きの良否及び熟睡の出來たりや否やを一般的に記載し、食量とは毎食事に於ける御飯の碗數である。

(ト)身長體重表は前載の通りとし、體格検査後之が記入法を教示し各自に自己の體格検査結果として記入せしむる事とした。

(チ)作業に關しては兒童日課の所にて詳述しようと思ふ。茲では大體作業地、

作業の種類及び分團を造りて各兒童に割り當てるに止まる。

(B)每週行事

(イ)一般的健康状態診察及び衛生講話

診察は毎週月曜日、土曜日、學校醫に於て行ふもので詳細なる部分の検査に涉らずして一般的健康状態或は特に個人につき注意すべき部分をなすに止む、衛生講話は主として校醫(差支へある時は教師)が、兒童の保健衛生上の問題に關し、日常早近なる材料を本として、經驗、物語、寓話等を混じへて講話する。(每週土曜日)

(ロ)郊外遠足

之が目的は前にも記せしが如く主として體育上の諸好果は勿論、實地見學に依りて一般的見聞を廣め、思想内容を豊かにし、諸學科の補充、領會、實證を得しめる等の知的方面より、更に、訓練上に於ける忍耐、節制、規律、持久、

剛毅等の鍛錬を爲し得、其他、氣分の轉換、元氣の促進、自信力の養成等をも併せ豫期するものである。

方法 としては毎週水曜日の授業の部分をして之に充てる事とし、目的^{〇〇}地は本學舎を中心にして往復二十町より三里位までの範圍に於て選定し、主として清冽なる河岸、洋々たる海邊、青松並ぶ砂濱、小高き森岡、神社、佛閣、其他歴史上の遺跡、名所、御陵等より、時節的なる蕘狩り、野遊び、花摘み、蕨取り、兎追ひ等をもなす事になつてゐる。

一體、近代人殊に都市の人々は手足の大筋を使用して勞働や歩行等をやらない。今後とても機械の發明、分業の發達、交通機關の整備に伴つて益々此の勢を助長して行く傾向が有るので有るが、此れは決して健康上喜ぶべき現象ではない。西洋では此の大筋使用を喧ましく言つて居る人も少くないのであるが、兎に角、生理的に言つて遠足すると言ふ事は極めて大切な事である。何故なら

ば、自然的に、リズムカルに足を動かす事に依つて全身の血行を催進し生理機能を旺盛にするからである。

今左に兒童の遠足記を引用すると、

水曜日 晴れ 五 B K 子

『Kちゃん起きなさい』とお母さんに起されてびつくりして飛び起きた。今日は遠足日だ。何となしに嬉しさがこみ上げて来る。急いで御飯を戴いて外に出て見ると、空は氣もちよく晴れて一點の雲もない。氣がせい／＼する。學舎に着いて裏の廣つ場でNさんやIさんと今日お参りする大鳥神社の事など話しながら遊んでゐると、間もなくピリ／＼／＼と集まれる合圖がなつたので、三人一度に『嬉しいつ』と云つて集つた。

さあ之からいよいよ出かけるのである。I先生の御話が有つて學舎の門を出たのが午前十時半頃だつた。

途々色んな草花が咲いてゐるので大切に根から取つて花束を作つた、始めのうちには涼しく元氣も良かったが神社の近くになると、もう熱くてくゞ仕方が無かつた。

カバンに入れて有つたおべんが重くなつたので、先生に持つて載いた。先生は大ぶん大せいの人のお荷物を兩方の手にも肩にも持つて居られた、が私のは右の手にお持ちになつた。やつとの事でお宮に着いた時にはもう十一時二十分だつた。大そうお腹がすいたので、お詣りが済んで暫らくしておべんとうを戴いた。私はTさんとNさんと三人でお宮の横手の石碑の下で食べた。

おひるからは、境内で縄飛びや、鬼ごつこや、かくれんぼをして遊んだ。私が後の森の中にかくれて居ると、ふと其の向ふの大きな木の枝から大きな眼をした、ふくらうが、こちらをにらんで居た。びつくりして他の人に知らせて急いで、大せいで来て見ると、もうそこには居なかつた。一生けんめい探したが

とう／＼居なかつた。

そのうちに集まれがなつたので、来る道でこしらへた花束をさがしてあはてゝ集つた、惜しい事には花は皆しほれて居た。歸りは少し道を急いで學舎へは四時に着いたお風呂へは入つて夕飯を戴いたがそのおいしさは何とも言へなかつた。夜は八時にねむつた。

(ハ)競技會 隔週土曜日に行ふもので、體育と遊樂と相半ばする様なものである。普通海濱、松林、公園にて行ひ、演技材料は日頃彼等の最も興味を以てゐる遊技や運動をなさしめ、十分に彼等の活動欲を満たし鬱を散じ快活の氣を養はんとするものである。

(ニ)子供の會 之も娛樂と好學心を養成し、發表能力、即ち話し方、讀み方聞き方、等の練習を兼ね期するものである。云はゞ一種の學藝會兼娛樂である。其の内容として日頃學習せし事柄のみならず、諸種の少年少女の讀物、傳記

童話童謡、劇等をやらしてゐる。

(C) 月末行事

- (イ) 身體検査及精神検査並びに月始との比較反省。
- (ロ) 保健指導講話(醫師に於て各個人につき語り聞かす)
- (ハ) 日誌、體格検査記入表の整理。
- (ニ) 生理的諸検査及び比較。
- (ホ) 裸體寫眞撮影及び比較。
- (ヘ) 學舎生活の感想を筆答せしむ。
- (ト) 總べての變化の結果は父兄に報告す。
- (チ) 作業の終末整理、兒童の作物は各自に持ち歸らしむ。
- (リ) 退舎式。
- (D) 兒童日課表

(イ) 一般課業の場合

- 一、起床(寄宿生檢温) 午前六時半乃至七時
- 二、含漱及び深呼吸 散歩 同 六時半乃至七時半
- 一、朝食 同 七時半——八時
- 一、休息(通學生檢温) 同 八時——八時半
- 一、作業 同 八時半——九時
- 一、朝會及び授業 同 九時——十一時四十分
- 一、午食 同 十一時 十五分
- 一、安息又は午睡 午後〇時三十分
- 一、授業 午後〇時半——一時半
- 一、間食(遠足其他) 午後一時四十分——三時十五分
- 同 三時半——四時

- 一、自由遊戯(通學生檢温)及び作業 同 四時—五時半
- 一、夕食 午後五時半—六時
- 一、休息及び散歩 同 六時—六時半
- 一、自習(其後檢温) 同 六時半—七時半
- 一、就床 同 八時

冬季最も日の短かい時は前表中の、起床、始業、終業等の時間を變更し、其他の日課にも多少の増減伸縮をなす事にしてゐる。

(ロ)夏季、短縮授業の場合

- 一、起床 檢温) 午前六時
- 一、含漱及び深呼吸 同 六時—六時半
- 一、散歩 同 六時半—七時
- 一、朝食 同 七時—七時半

- 一、休息 同 七時半—八時
- 一、各作業 同 八時—八時半
- 一、授業及朝會 同 八時半—十一時十分
- 一、休養 同 十一時—同三十分
- 一、晝食 同 十一時半—正午
- 一、午睡(安息) 午後〇時—一時半
- 一、海水浴又は海氣浴 同 二時—三時
- 一、入浴 同 三時—三時三十分
- 一、間食 同 三時半—四時
- 一、自由遊技及び作業 同 四時—五時半
- 一、夕食 同 五時半—六時
- 一、安息及び散歩 同 六時—七時

一、自習(終りに検温)

午後七時—八時

一、就床

同 八時

如上の日課中、單に項目を列挙しただけでは、其の實況が明かでないので今左に二三の項について述べて見よう。

9

(A)作業

(1)動物飼養 主として兔、雞、鳩、魚類等を飼養してゐる。動物の愛護飼養がどれ程教育上價値の存するものかは知らないが、私の感想的意見を述べるならば、

(二)知的方面 飼養する動物の特徴、習性、形態、其他動物對植物、動物對人類への様々の關係を自然に收得し得るものである。

即ち兔を飼ふ事に依つて、直接其れに屬する知識は勿論兔の好んで食ふ菜つ葉や植物の名前やそれに関する知識嫌ひな物の知識も不知不識の間に覺え。其

他の直接間接に關係する事柄は、凡べて兒童等の内的生活に即した、一つの生動する知識體系を形成するのである。其他の動物の場合も同様にして、範圍は狭いが、それが直接關係に関する所は、其れを中心として社會生活の凡べてに關係し、大社會の縮圖として小社會を代表するのではあるまいか。昨年、私が理科をば教へ様(丁度其時の教材は雞であつたが)とした時、何かの急な用事で雞を用意する暇もなかつたので取敢あえず、とやの中のものを見せ様として行つて見ると教室には誰も居ない。ふととやの方で子供の聲がするので行つて見ると、子供等は皆、面白そうに、その餌をあさつたり、つゝき合ひをして居る様などを見て居て迎ても私が後に立つてゐる事などは少しも知らない、そして口々に何か言つたり、隣りの者と話し合つたりしてやつてゐる。『あれは何だらう』『あれはとさかだよ』『何にするもんだ』『わからん……』『雞の羽はきれいだね! 光つてゐるね!』『何故だらう!……』など、やつて居た。私は此

の一種の尊とい光景に接して、或る教授上の暗示を得る事が出来た。子供等は著しく、静物より活動せる物を、成り上つたものより發展しつゝあるものを、死せる物より生活せるものを好み、且つ進んで興味を持つ様である。

(二)情意的方面 動物を飼ふ様になつて殊に感じたのは、彼等の知的生活の發展よりも寧ろ、情意的方面、即ち性格の陶冶の上に著大の影響が有る様に思ふ。

私が嘗て廣島に遊んで居た時、高等師範教授であつた懐かしい私の恩師岡部爲吉博士の講義中の挿話を思ひ出さずには居れない。それは斯ふである。

先生は極めて篤學な心理學者であるが、時々、勝れた教育上の意見などを拜聴したものであつた。或る講義の時間に、『私は先年吳市で教育に關する講演をやつた事が有りますが、其れが終つて一人の熱心な婦人がわざわざ宿まで尋ねて來て呉れまして斯う云はれるのです。』先生、甚だ恐れ入りますが一寸御伺ひ

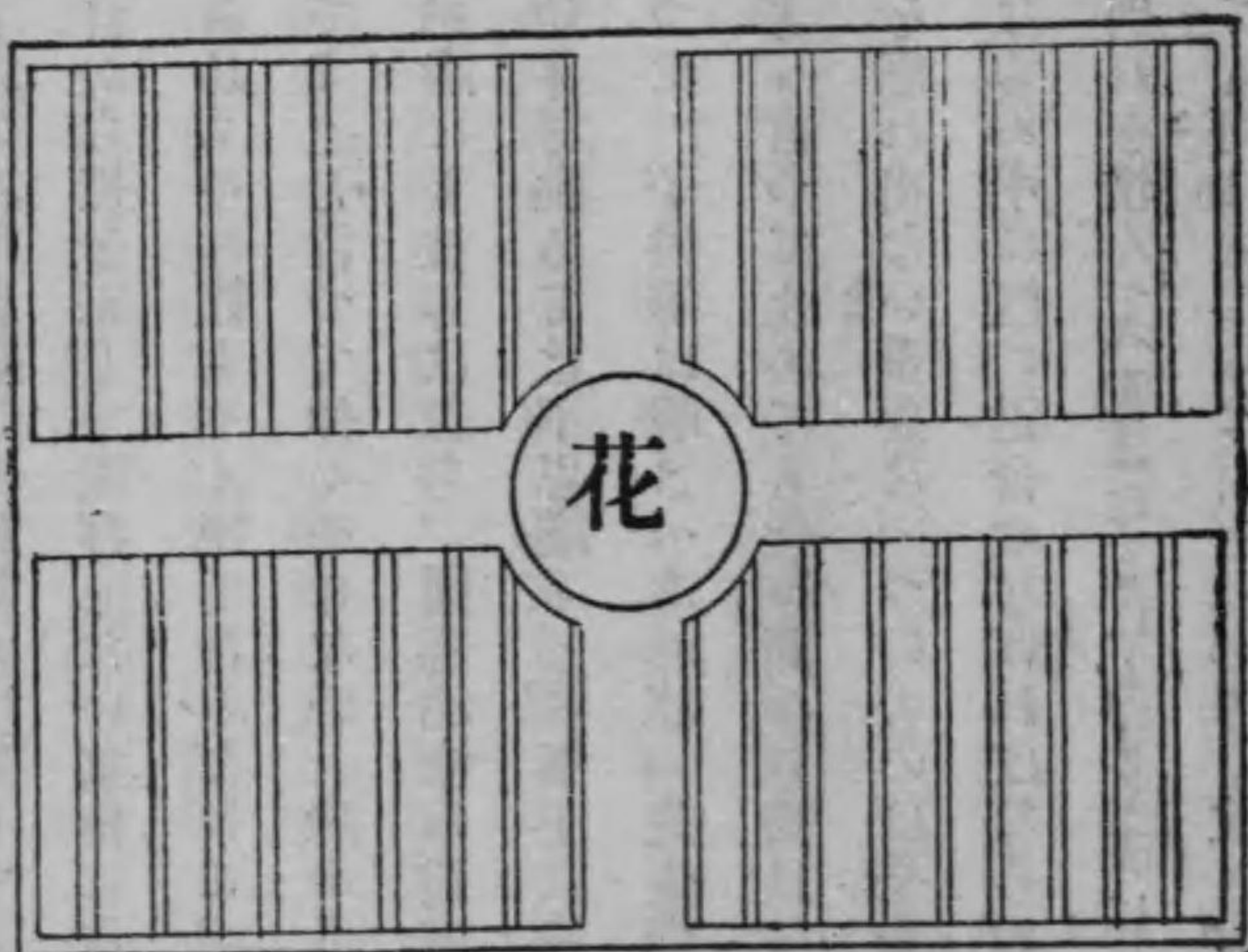
致したい。それは妾の方の子供は皆で四人ですが、どうも常に喧嘩をして困るのですが、何うしたらその癖は直りませうか。』と尋ねられましたので、私は簡單に『それは可愛らしい動物(家畜)をお飼ひになつたら宜いでせう』と言つて置きましたが、恰度一昨日(日曜日)に又あちらへ参りましたら偶然其人に出遇したので、早速、例の事はどうですと尋ねましたら、向ふでは『先生、あれから早速試みましたが、喧嘩の度數も、めつきり減つて大そう仲が良くなりました、どうも有難うございました』と言つて大變喜んで居られた様ですアハハ……』

唯此れだけの御話でしたが、それが深く私の印象に残つて居たのですが、今にして始めて、さてこそと思ひ合はされます。私は思ふ。兒童は動物を愛護すると言ふ幾分か自發的な包容的な愛と同情とを體驗する事に依つて、素朴な原始的な感情は次第に純化されて來ると共に、一方、兄弟相對抗すると言ふよりも自分の今迄の喧嘩相手たる兄弟共々に、憐むべき可愛らしい同一の對象をば

同様に愛すると言ふ事に於て、お互の感じを次第に融和するのでは有るまいか。かくして、此の愛の経験即ち愛せる時の心の平和、愛の可能についての自信、大きく包容しようとする精神的一般態度が、彼等の日常接觸する所の有らゆる人々に對して類似の態度が生ずるのでは有るまいか、いづれにもせよ、動物飼育が性格上に及ぼす影響の大なるもので有る事は全く事實である。

(2) 野菜及び花卉園の手入

之が爲には兩者を合せて約五百坪の畑地を開拓して次圖の様に條を作り、之の一條をば各一人の兒童に配當し、めい／＼勝手に野菜類や花の類を植培さす事にしてある。私も使丁や子供等と共に施肥、餘草、水やり、等をやつたり、中耕したりしますが、よく近所の百姓爺さんに笑はれたのですが、氣長くやつて居ると植物もよく出來て、自から興味も湧いて來ますし、殊に讀書にありた時などは、最も良い氣晴らしになるのである。彼の肌さわりの良い朝の空氣



を十分に吸ひ乍ら露せる草を踏みながら神々しい朝日に接する時、彼の壯嚴なる大阪灣の落日を拜しつゝ、鍬を手にした時。の其の氣分は何とも言へない自然の力が然うさせるのであるか、勞働其の物の餘徳であるかは知らないが一種の敬虔な清い純な歡喜と感謝で胸一杯になる。

起床後眠むたい眼を擦り乍ら行つて見ると、つい二三日前にまいた大根や白菜の幼芽が可愛く、しかし力強よく芽ざして居るのを見る時、今更ら乍ら

宇宙の不可思議なる神祕力に對して、其の生々發展の生命力の強剛さに對して、自から襟を正して跪拜したい氣持になる事も少くない。子供等も、所謂都育ちの坊ちゃん嬢ちゃん連であるだけに、始めは仲々不精で、『百姓の仕事なんか嫌です。』と言つて仲々やらない。然かし色々勸めてやつて見る様にした所が、不思議にも彼等は忽ち、園藝趣味の捕虜となつたのである。日に日に生長し行く幼芽を眺めては不思議そうに無上に喜んで色々の世話をしつゝ可愛がる様になつた。子供等は暇さへあれば、『先生畑にやらして下さい』畑に行きますよ。』など、言つて止めても仲々聞かぬ様になつた。後章に述べる様に、彼等が此學舎を忘れ得ない重要な一つのは全く之れであるのである。植物が未だ大きくならぬ中に既に退合せなければならぬ様な時には、自分の植えた植物と非常に別れを惜んで(童謡などにもよく表はれてゐるが)滑稽にもまだくゝ幼芽で取つても何にもならないものを悉く抜き取つて紙に包んで持つて歸る者も有つた。

野菜などが食べられる位に大きくなれば、子供等にめい／＼持つて歸らせるのであるが、子供も父兄も大喜びである。

之の作業の効果として考ふべきは、(イ)先づ知的方面に於ては、その種子より幼芽、それから大きくなる迄での發生的の各段階を諒解する事が出来るので甚だ好都合である。大自然を背景としての植物の固性、部分的觀察が生きたるものとして成されるのであるからして眞の植物を理解する事が出来る。此點は甚だ重要な一面であると思ふのである。(ロ)情意的方面、單に知的のみならず、高尚なる情操や、意志の鍛練になる事夥しいと思はれる。先づ、畑の條や形をどんなにしたら恰好が良いか、どんな形に種を下ろしたらよいか、等をも考へなければならぬし、又、植物其物が美しく、圖畫をやつても綴方をやらしても、之を題材にするので自然美感は様々の形で成長して行くのである。

又、植物が幼芽から成長迄には、中耕、除草、灌水、施肥等次々と絶えず、

根氣良くやらなければならず、従つて一つの事を持續する所の忍耐とか意志の陶冶は自然に出来る譯である。又、植物は實に正直なもので人の様に口先でごまかす事は出来ず、手入れを一つ怠れば其だけ植物は衰へ、手が届けば届く程立派なものになる。草を取らなければ、いつまでもそれが除かれず、口だけで水をやりましたと言つた所で、實際やらなければ、すぐに萎靡して仕舞ふ。而かも、それが著しく目に見える。こんな事を私は常に子供等に言つて聞かせるのであるが、皆奮つてやる様である。此間に自然に、勤勞、正直、至誠、公平、正義等を體認し得るのである。彼の報徳翁の精神も茲に在るのである。即ち天地間の生きたる經文を讀む事に依つて始めて眞理を知る事が出来るのであらう。

(3) 昆蟲及び植物採集

(イ) 之の意義 之は兒童の活動癡や殘忍性等をば善良なる方向に轉回し且つ實際教授上の標本を作り博物的知識を收得せしめん事を期するものである。

(ロ) 方法 主として自由遊戯又は作業の時間を利用して各自に集めしむ。採集分團を分けて各方面の廣野を探がし廻はる事にする。昆蟲を取る時などは日頃遲鈍な子供でも非常に敏活に立ち働らき、活意力や神經の活動を促進する爲には好都合である。目的に依る注意、活動、順應等が全體の意識を統一するに効果が有ると思はれる。

今迄で、彼等及び教師協力で作つた動植物の標本が可成りに集つてゐるが、教授の際之を出して見せると、まづい乍ら亦一層の興味を引くものである。

(B) 海水浴

(1) 効果 海水浴の効果については色々言はれてゐるが、

(イ) 血行を促進し、(ロ) 食欲を増進し、(ハ) 風邪に對する抵抗力を増し、(ニ) 胃腸病に効果を與へ、(ホ) 其他身體の諸器關内臓の部分に影響する事は事實である。

(2) 期間 其他大體七月中旬から九月の初旬までとし、度数は一日一回又は二回(休日及び休暇)、一回の浸水時間は、最初を約五分とし漸次三十分迄でに達する。之は兒童の體質及び健康状態等に依つて加減するのである。

(3) 方法及び注意 特殊の病氣又は浸水する事に依つて容易に頭痛「チアノーゼ」等を起こす者は之を禁ずる。故に實際上次の三組に分類される。

第一組 健康で海水に這入つても何等支障なきもの。

第二組 少時間又は少度数ならば差闕へなきもの。

第三組 全然海水に入るを禁せられたるもの。

第一、第二の兩組は別々の團體として別の引率者の下に浸水する。第三組は前述の方法に依り海氣浴及び日光浴をなす事とする。

◎注意事項

(イ) 入水前には準備運動、上陸後には整理運動をば約五分乃至十分間行ふ。

其れは種々適宜の姿勢で、

1 足先開閉 上下。及び踵上下の運動。

2 舉踵半屈膝運動。

3 臂上舉(前上舉及び側上舉)、舉踵半屈膝の運動。

4 脚前伸 後伸 前後伸の運動。

5 脚側舉、側振。前舉前振。前後振動及び回旋運動。

6 頭、前後側屈及び轉向運動。

7 臂左右開及び側振運動。

8 呼吸運動種々。

等の諸運動をなし、なるべく回数が多くならぬ様にし疲勞又は發汗せざる程度に於てなすこと。若し多く發汗した場合は手拭でよく拭ふて後浸水せしむべしである。

(ロ) 引率者は水泳の心得有る人とし、一人の教師の引率人員をば十人乃至十五人以内とする事。

(ハ) 海水中は帽を被らせ、時々頭を水に浸させる事。

(ニ) 水浴前後三十分位、食事を取らせぬ様にする事。

但し、餘りに空腹なるは宜しくない。

(ホ) 身體は一部より漸次浸水せしむる事。

(ヘ) 耳に綿花をつめる事。

(ト) 危険の場合には自他に係らず教師に急報せしむる事。

(チ) 上陸後は淡水で全身を洗ひ乾いた手拭でふく事。

(本學舎では直ちに風呂で温浴せしめる)

(一) 海氣浴及び日光浴

之は夏季海水浴期間中には第三組に屬する者のみ。其他は適當の場合に全兒

童をしてやらしめるのである。オゾンを多量に含有せる、且つ氣壓高く濕潤なる海氣に接する事に依つて、病患の豫防となるは勿論、呼吸器の保健に効果が有る。又日光の反射強きが故に諸種の有機體を撲滅し、新陳代謝の機能を旺盛にすると言はれてゐる。

(2) 方法 海氣浴では樹林の下蔭に樂椅子を列べ、之に兒童を安臥せしめ靜かに呼吸せしめる。夏休み中は午前午後各一回、一回の長さ約一時間とす。夏休み前後の短縮授業中には午後一回とし、冬の如き日光の弱き時では日光直下で行ふが寒風を避けねばならぬから常には行へない。日光浴は夏季では海岸の松林の近くで海氣浴と共に行はしめる。其他の季節には無帽の儘とし、殊に冬季は全身を日光に晒らす。時間は夏季は午前八時—九時、午後二時—三時迄とし。冬季は午前九時—十時、午後三時—四時迄で適當とする。

(3) 日光海氣兩浴の注意

(イ)他の運動より之に移り、又は後に他の運動に移る場合は孰れも整理又は準備の運動を忘れざる事。

(ロ)施行中は精神を沈静ならしめ、妄りに發言せしめざる事。

(ハ)監督者は注意を怠らず、變調と認めたらば直ちに應急方法を講ずる事。

(1)散步。

夕食が済んでから、殊に夏の夕方は殆んど毎日散歩する。辿り行く田舎道では無邪氣な歌など歌ひ乍ら小波寄せ返へす海濱に出れば、或は皎々たる月は海上遠く照らし互り、或時は満月將に東山には、えみ出でんする壯嚴且つ偉大なる光景裡に恍惚として我を忘れ、遂には歌ひ叫び感嘆し、狂喜し雀躍する。

果ては無風流な私迄でもが、彼等と共に歌ひ興じ、下手なダンスの眞似をもする様になる。或時は却つて冷靜に子供等と濱邊の砂上に車座して悠久なる宇宙天地 大海 天體 潮汐、波浪、風雨等の様々の問題に關して、あらゆる形の

質問が出る。

これこそ眞の彼等の疑問であり、智的欲求の表現である。小波のひた／＼と打ち寄する渚を見やり乍ら彼等の疑問に答へる。彼等は、全く眞劍に目を圓くして私の言葉を聞き洩らすまいとして張りつめてゐる。實に尊とい光景ではあるまいか。かくて日々、次に變化する多くの問題を解決する事に依つて彼等は偉大なる大自然に關する生きた知識を獲得する。大自然は常に何事をも語り、何事をも教へんとはせざるも常に雄辯に人間に啓示する。常住不變の體容をなすも不斷に變轉して常に新らしきものを吾等に與へる。大きく人間を包擁し、内面より靜かに誠しめ内面より賞讃する。誰やらの言葉に、「宗教家のあらゆる雄辯より鬱然たる森林の逍遙をなさしむるに如かず」と。之れ實に眞理であると思ふ。

實に自然は人間教育又は陶冶の根源である。彼の古來多くの哲學者、宗教家

等が單なる散歩漫步の間に無限の啓示を得、その豊かなる想を練つたと言ふ様な事例の少くないのは實に之に依るのである。

第四編 林間學校教育の影響

第一章 兒童の眼に映じたる林間教養

第一節 一般的感想、(退舎の際に徴したるもの)

學舎生活の感想、(I) 第五學年B組、T子

私は此處へ來て色々の事を感じました。先づあの廣い運動場です。青々とした草が一面に生えてゐて飛んでも轉んでも少しも痛い事はありません。

教室は家の外で空氣が大變よく、夏など涼しい風の通る松林の中ですから大そう氣持よく勉強が出来ます。時々日あたりの好い所で勉強させて呉れるので氣がせい／＼します。とりわけ、朝の景色や入日の眺めはほんとうにきれいです。私が此所へ來る時お父さんは、『あんな空氣の良い郊外で勉強するのは大變涼しくて好いだらう』と言はれましたが私も來て見てお父さんのおつしやつ

た通りだと思ひました。それから、お母さんは、『からだか丈夫になるだらう』とおつしやいましたが、私も来た時より、すつとからだか丈夫になつて色も黒くなつて心も落ち着いて來ました。

此所は大變静かな所です。唯時々電車の音が聞えるばかりです。夜などは蟲の音も大變可愛く、淋しく聞えます。けれども、私共はもう後二三日で此所とお別れをしなければならぬのです、何だか懐かしく名残惜しくてなりません。

學舎生活の感想、II 第六學年、A、M組、H

此所はほんとうに僕を好きにする。大阪の様な所では泣いても怒つてもどうしても出來ない事が、ここでは易々と出来る。先づ畑を作る事である。あちらでは種が有つても土地がない。たとひ土地があつても高くてもとも駄目である。而かも之が私の一番好きな事であるのである。又生々とした新鮮な空氣は、逆も此所以外では吸へない。青々とした山、廣い、青海原、どうしてこ

れがああ煙の都に見られよう。涼しい風の吹く午睡室でひるねするのは大それたよい氣持である。

僕等は毎日野球をやる。見るからに氣持のよい青草の廣い、運動場で盛んにやる。運動に疲れて松蔭のベンチに腰かけて風に吹かれた時の氣持や、風呂へ這入つて汗を流し散歩をする氣持も何とも言へない。こんな所に長く住むことが出來れば頭もよく働らき出すが第一長生きをする事だらうと思ふ。

學舎生活の感想、III 第五學年、A、M子

月日のたつのは早いもので、九月はもうおしまいです、私達が始めて來た時は、まだ暑うございましたが、此頃はすつかり秋らしくなつて勉強もほんとうに良く出来る様になりました。こんな時に此の學舎を去らねばならぬ事はほんとうに惜しい氣がします。けれども一つ嬉しい事が有ります。それは體重がふえて、せいも大分高くなりました。これで本校に居る人々にも負けまいと思つ

て喜んでゐます。此の間、家へ歸りました時、父母は私が大そう太つて丈夫をうになつたのをほんとに喜んでくれました。そして『弟も連れて行つて貰つたらどんなに丈夫になるか知れない』と言つて居られました。此所と別れるのが悲しくてなりません』。

未だ此の外にたくさん有るが此れ位にします。此れを見ても、如何に彼等に、この美しい、ゆつたりした、平和な自由な環境が慕はしく懐かしいものであるかが解る事と思ふ。

第二節 部分的感想（退舎時に徴せる答案）

(A)問 學舎に来てから何か變つた所があつたか？

(答イ) からだが丈夫になつた、
(ロ) 體重、胸圍等がふえた……全部の兒童、

(ハ) 食物がおいしく食べられる様になつた、……全部
(ニ) 頭がすつとして勉強が出来る様になつた……六五%
(ホ) 夜よく休める様になつた、(又は夢を見なくなつた)

八七%

(ヘ) 何事も落ちついて出来る様になつた
(ト) 心もしつかりして來た……
(チ) 兄弟げんくわをしなくなつた
(リ) ね言を言はなくなつた……各六%

六三%

未だ其の外に色々有ると思はれるが突差の間で有つたので意識に浮ばなかつたのも少くあるまいと思はれる。

(B)問 父母から驚かれるか、喜ばれるかした事はないか？

〔答〕(イ.) 御飯がたくさんいける様になつたので驚かれた九一%
 おかすの好き嫌ひがなくなつてほめられた、…五六%
 力が強くなつたとほめられた…十三%
 アバラ(肋骨)が見えなくなつたと喜ばれた、…四%
 午睡が有ると聞いて驚かれた…六%
 黙まり屋がよく物を言ふ様になつてほめられた一%
 歸りが遅いと驚かれた、…八%
 家の仕事を手傳つて呉れる様になつたとほめられた、…二八%
 此の頃は大きくおとなしくなつたとほめられた、…%
 中にはこんなものもある。
 (ス.) 電車のバスを下さるのか、と驚かれた 一%

(C) (問) (イ.) (イ.) (ル.)
 (答) (ス.) (リ.) (チ.) (ト.) (ヘ.) (ホ.) (ニ.) (ハ.) (ロ.) (イ.) (イ.) (ル.)
 朝早く起きる様になつたとほめられた 三%
 此所で一番樂しかった事(愉快だった事)はなにか?
 遠足へ行つた時…全部
 自分の畑のお菜が芽を出した時 七二%
 運動に疲れておやつを貰ふ時、…六八%
 海水浴…九三%
 ボートで濱寺へ行つた時…一二%
 月夜の散歩或は月見の晩…二六%
 運動場で野球をやつた時…男生全部
 兎や雀の墓を作り上げた時…六七%
 本校から同級の友達の遊びに来た時 全部
 茸がりに行つた時…一五%

(ヲ.) (ル.) 魚つり、蛙つり、蟹つり、貝拾ひ等 四五%
 昆虫取り、花摘み……………三六%

右の内にも多人數が之を舉げた事は勿論少人數の舉げた項目についても、吾人に取つて尊いものを暗示して呉れる事を思はなければならぬ。中には奇抜なものもある。

(ワ.) 愉快な事が多くて困る……………と云ふのもあつた。

(D) 問 一番辛らかつた事は何か。

(答) (イ) 兎の墓を〇〇君に壊された事……………九七%
 (ロ.) 畑の豆が僕のだけ芽を出してゐなかつた時……………一%
 (ハ.) 午睡(又は間食)の時騒いで叱られた時……………八%
 (ニ.) 腹や頭の痛かつた時……………二%
 (ホ.) 雨の日外で遊べない時……………八五%

(ツ.) (チ.) (ト.) (ヘ.) 友達と喧嘩してなぐられた時……………一%
 いち悪しられた時……………一四%
 くもの巢に顔がかかつた時……………三%
 歸りの遅い時又は一人で歸る時……………七%
 此の問ひに對して答へなかつたものも有つた。次の様なのも二三有つた、

(オ.) (ル.) (ヌ.) 辛い事は一つもなかつた……………
 辛らくなかつた……………
 思ひ出せない……………
 何かして欲しいと思ふ事はないか。……………四%

(E) 問 何かして欲しいと思ふ事はないか。
 (答) (イ.) 運動場の凸凹を取つて欲しい……………八八%
 (ロ.) 運動場の草を抜いてほしい……………三%
 (ハ.) 運動具をたくさん作つてほしい……………全部

(カ.) (ワ.) (オ.) (ル.) (ヌ.) (リ.) (チ.) (ト.) (ヘ.) (ホ.) (ニ.)

(F) 問

午睡の時間を長くして貰ひたい、……………二二%
 授業の時間を長くしてほしい、……………一八%
 遊技の時間も延ばしてほしい、……………七%
 午睡の時騒ぐ者をもつと叱つてほしい、…二%
 海水浴をさして欲しい、……………六三%
 もつとたくさん本を買つてほしい、……………七九%
 夜淋しいから賑かにして欲しい、(宿泊生全部)
 友達も皆茲へ來られると好いと思ふ……(同上)
 遠足を少くしてほしい、……………二%
 教室の入口は戸口にした方がよい……………各一名
 小使がえらさうに言ふので變へてほしい……………各一名
 此所にもつと長く居たいと思ふか。

(答) (イ.) (ロ.) (ハ.)

居たいと思ふ……………九八%
 お父さんが許せば居たい……………各一名
 居たいけれども友達が少ないので淋しい……………各一名

右の様に全部が永続的に居る事を希望して居る。(勿論(ロ)(ハ)の如く
 條件附のものも有るが)

大體以上の如き問ひを出して答を求めたのであるが、彼等の偽らざる告白は、
 經驗學識共になき吾人に取つては非常なる天啓の聲であり、暗示である。蓋し、
 眞の教育とは、教師の氣まぐれや道樂にやる仕事ではなくして、全く兒童のた
 めの教育である。それ故に、従つて兒童の本性を通じて、之の中に於て教育の
 白道をば見出すべきである。斯かる意味から言へば、教師とは實に教へる人で
 はなくして却つて彼等兒童より學ぶ人でなければならぬ。より多く學び得る人
 のみが、眞の教育者たるに近いと言はなければならぬ。かく考ふれば如上の平
 凡なる問答も亦何等かの意味を有し得ると思はれるのである。

第二章 兒童身體方面的影響考察

第一節 健康日誌の概覽

兒童の健康日誌は前記せし如く、彼等日々の睡眠、體溫、食欲、便通、事故等を一般的に記入したものであるが、後に示す如き身體検査の結果と相照合して考へる事も面白い事と思ふ、(検査人員百九十五名)

(I)睡眠、之は毎晩の子供の寝付きの良否や、睡眠の度合の多少を一般的に良否に分類して記録したものであるが、今之を概括的に、入舍當時の一週間と、退舍前の一週間とにつき比較して見るならば

	相等しきもの	増加せるもの
良の數	九九名	八九名
不良の數	九九名	七名

(II)體溫、通學生と寄宿生とが混合しある故、朝夕二回の計量も純粹に朝夕に非ざるが爲、概括しても意味少なきものとなる事と思はれるので茲には省く事とする。

人の體溫は健康者に於ては、朝夕共に同一なるか又は多少夕方に高温を示すに過ぎないのであるが、病者或は之に近き虚弱者に在つては、兩度の差が甚だ顯著だと言ひ得るのではあるまいか。今此の日誌に表はれたる朝夕二回の體溫の差異の變化を見るに、初めの一週間の差異平均は殆んど、〇、二、一度乃至〇、六度であるに比し、最終週間では〇、一乃至〇、三度であつた。次に、前日と次日との熱の變化が餘程緩和されて徐々に變化する様になる傾向が有る。之れは只日誌面に表はれたる事實のみについて言つたので其の精確度は最後迄で保證の限りでない。

(III)食欲、食量變化の跡を見ると面白い結果になると思ふ。多くの父兄の告白に

依れば、彼等は朝食が最もまづ、従つて其の量も少ないさうであるが、之れは虚弱者には有勝の事で當然だと思はれる。

今始め、及び終の二週間の平均を比較して見るのに、

食事	増減		人員	減少率平均	不變
	増	加			
朝食	一九五人	三二%	〇	〇	〇
晝食	一七一人	四八%	二四人	一七%	〇
夕食	一八六人	四〇%	六人	一二%	三人

以上の表を見るも朝食は例外なく多くなつて居る。之れ或る意味に於て一般的健康の増進せる一證とするに充分であらうと思はれる。朝夕の食量に於て稍減少せる者あるは種々なる原因も有らうと思ふが、主因は、始の週間は、物珍

らしさと、運動量の激増等のためであらうと思ふ。そして、量が終りになつて減少した形になつて居る人も有るが、此れは決して憂ふべき現象でなく却つて自己の體格に適合せる食量に、一定した事を物語るのであると思ふ。又一日の總量にして見れば以前の週間に劣れるものは一つもなかつたのである。

次に、彼等は一日中どの食事の場合最も多量に要求するかであるが、之れは個人の天性、家庭での習慣、身體状態の差違等に依つて不定であるが、概して從來では晝食多きものが八十%の多數に上り、夕食多きものが二十%である。それから一般に朝食は晝食の五分の三乃至三分の二に當るものが最も多い様である。

(IV) 便通、身體に故障なく所謂正常状態に在る場合は普通約一日一回の便通が無ければならぬのであるが、今假りに、之の標準に遠きものを孰れも不良とし、近きものを良とすれば

時期	良	不良
始の一週間	一〇八人	八七人
終の一週間	一六一人	三四人

右に依れば其の傾向として良好に向へる事は否み得ないしかし、期間が餘り短いので充分思ふ程に行かないのは残念な事である。

(V)事故、之の數も終に至る毎に少なくなつてゐるのである。之れ兒童保健上喜ばしき事と言はねばならぬ。

第二節 身體検査結果の考察

本節に於ては、主として身長體重及び胸圍に關して、検査の結果として表は

れたる收容前後の變化状態を考察し、更らに營養、血壓、血色素、顔部等（其の他は前節に述べた）について一般的に通觀して見やうと思ふ。

左に示す諸表は昨年中我が學舎に收容したる全體兒童に對する概括的考察なるが故に、其の各々の兒童の個別的事情は明かでない。然かし、此の方面にも非常に興味ある事實を示してゐるが、一々の場合を叙べ盡す事は甚だ繁瑣な事で、此の小冊子としては到底望み得ない。更に、斯くの如く個別的體質に對する林間教養の影響が多種多様なると共に、各收容の時期に依つても様々の異つた反應が表はれて來る事は明かであるが、之が解決は將來を期して研究を積む事とし茲では單に一般的傾向として述べるに止めたいと思ふ。

(一) 全國兒童平均に對する學舎兒童の體格

第四編 第二章 兒童身體方面的影響考察

圖	胸				體				長				身	別性	
	女		男		女		男		女		男				後前
	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前			
學舍兒童平均	一、八五	一、八九	一、九四	一、九九	五、八五〇	六、一一八	六、五九九	六、三五六	四、一九	四、二一	四、二四	四、二〇	學舍兒童平均		
全國兒童平均	一、九七	二、〇五	六、五三七	六、七二四	四、一〇	四、一三	全國兒童平均	較差	增平均	〇、〇七(過)	〇、〇九(過)	〇、〇九(不及)	〇、〇四		

◇年齡十一歲(單位、尺、貫)

圖	胸				體				長				身	別性	
	女		男		女		男		女		男				後前
	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前			
學舍兒童平均	一、八五	一、八二	一、九三	一、九〇	五、八六二	五、六七四	六、一一五	五、八九二	四、〇五	四、〇二	四、〇六	四、〇二	學舍兒童平均		
全國兒童平均	一、九一	一、九八	五、九四三	六、一七九	三、九四	三、九九	全國兒童平均	較差	增平均	〇、〇九(不及)	〇、〇五(不及)	〇、〇八(不及)	〇、〇三		

◇年齡十歲(單位、尺、貫)

(以下全國兒童平均とは本年四月十四日發行の官報所載の中最近の記録に由る)

諸項			變化			諸項			變化		
減少	不變	增加	減少	不變	增加	減少	不變	增加	減少	不變	增加
一四	四	一六六	〇	二六	一五八						
八%	二%	九〇%		一四%	八六%						
〇、〇四五		〇、五五〇			〇、〇六						
〇、〇四		〇、二五六			〇、〇二七						
		〇、二三七			〇、〇二五						

(イ) 體格變化 (増減) 状態の考察
身長の増減 (全部を一ヶ月に換算) (單位尺)

(ロ) 體重の増減 (全部を一ヶ月に換算) (單位貫)

圍		胸		重		體		長		身		別性	
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	後前	後前
後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前	後前
一、九四	一、九〇	二、〇三	一、九九	七、〇三五	六、八三〇	六、八九六	六、六七二	四、三六	四、三四	四、三〇	四、二八	學舎兒童平均	四、二八
二、〇五	二、一一	七、二七七	七、三四〇	四、二七	四、二七	全國兒童平均	四、二七	〇、〇一(過)	〇、〇三(過)	〇、〇七(過)	〇、〇九(過)	較差	〇、〇一(過)
〇、一一(不及)	〇、一五(不及)	〇、〇八(不及)	〇、一二(不及)	〇、二四二(不及)	〇、四四七(不及)	〇、四四四(不及)	〇、六六八(不及)	〇、〇七(過)	〇、〇九(過)	〇、〇七(過)	〇、〇三(過)	增平均	〇、〇二
〇、〇四	〇、〇四	〇、二〇五	〇、二二四	〇、二二	〇、二二	〇、二二	〇、二二	〇、二二	〇、二二	〇、二二	〇、二二		〇、二二

◇年齡十二歲 (單位、尺、貫)

第四編 第二章 兒童身體方面的影響考察

(一) 胸圍				(ロ) 體重			
標準以下	同標準	標準以上	關係前後	標準以下	同標準	標準以上	關係前後
一五四名	三名	三七名	入舎前	一二一名	二名	六一名	入舎前
一三〇名	四名	五〇名	退舎後	八〇名	〇	一〇四名	退舎後
二四名 (減)	一名 (増)	二三名 (増)	較差	四一名 (減)	二名 (減)	四三名 (増)	較差

(一) 身長 (以下記載の標準とは全國兒童平均の事也)

(二) 全國兒童標準と該教養結果との關係

減少	不變	増加	變化諸項
〇	一三	一七一	人員
—	七%	九三%	百分比
—	—	〇、〇五	最多増減
—	—	〇、〇三四	増減平均一人
—	—	〇、〇三一	絕對増量

(三) 胸圍の増減 (全部を一ヶ月に換算) (單位尺)

標準以下	同標準	標準以上	關係前後
五七七名	三名	一二四名	入舎前
五一一名	二名	一三一名	退舎後
六名 (減)	一名 (減)	七名 (増)	較差

(四) 血壓及び血色素、(小田博士述)

(イ) 血壓、兒童期に於ける血壓の意義につきましては學者の所説區々として準據するに足るものはない。余が過日、十二三歳の兒童につきて調査せる所に由ると、身體の大小よりも寧ろ體重の大小に比例する有様である。然し乍ら之が日常の生活状態に依り如何様に變化し行くものなるやは未定の問題である。

今我が郊外學舎兒童につきて、其の收容の前後に於て特に體質の劣等なるもの十二名に付いて見るに、その増加せるもの四名、不變のもの一名、減少せるもの七名であつた。此の事實は血壓に及ぼす諸種の因子につきて詳細攻究して見なければならぬ事であつて今遽かに其の是非を決する事が出来ない。

其の後の研究に依ると、こは著しく氣溫の高下に關係して居る様であるから、兩度の検査を比較する場合には、各の氣溫を等しくするか、或は同氣溫に還元

して比較しなければならぬ。いづれ將來を期して研究して見たいと思ふ。
 (ロ) 血色素量、血液中の血色素含有量の測定は身體營養状態の良否を判別する上に於ける緊要の一指三法である。而して從來多くの野外學校等に於て諸家が報告せる結果、並びに余の研究に由るも、合理的教養に依つて血色素量の増加を示して居る事は明かに之を證するものである。本校郊外學舎に於ての成績は左表に見るが如くその増加總量は一六三%で一人平均約十四%の増加となる譯である。

(▲は減)

血 壓 (耗 承 柱)			血 色 素 量 (%)			姓 名
入 舎 前	退 舎 後	差	入 舎 前	退 舎 後	差	
八五	六五	▲二〇	八五	九〇	五	ム、セ
七五	八〇	▲五	七三	一〇〇	二七	ヒ、サ
九〇	八〇	▲一〇	八五	一〇〇	二五	ヤ、ア

第四編 第二章 兒童身體方面の影響考察

胸圍	體重			身長			諸施設
	增加	不變	減少	增加	不變	減少	
平均 〇、寸一分四毛	六人	〇	一人	〇、寸一分八毛	一人	〇、寸一分八毛	臨海學校
平均 〇、寸二分九毛	三人	〇	三人	〇、寸二分五毛	二人	〇、寸二分五毛	山林學校
平均 〇、寸三分一毛	一人	二人	一人	〇、寸三分一毛	二人	〇、寸三分一毛	郊外學舎
平均 〇、寸六分	〇	〇	〇	〇、寸五分	〇	〇、寸五分	兒童ノ發育度

●兵庫縣結核豫防會施設との比較

序乍ら、隣縣なる兵庫縣結核豫防會の施設にかゝる山林學舎及び臨海學校の
 教養の結果と比較するならば

七〇	七五	九〇	八〇	七五	八〇	九〇	七〇	七五
六五	七五	八〇	七五	八二	六〇	八〇	九〇	八五
▲	○	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
五	〇	〇	五	七	〇	〇	〇	〇
八〇	七九	七八	八四	六九	七一	八一	七七	九〇
一一	七九	九〇	九三	八五	八七	九四	九四	九〇
三三	〇	一二	九	一六	一六	一三	一七	〇
オ、ミ	ク、チ	フ、シ	ベ、ア	ス、ト	イ、フ	タ、ヤ	ア、ヨ	ト、オ

色素	血	
	最少増	最多増
増平均	一、三%	三〇%
	七%	二五%
	五%	三三%
	一三、六%	一三%

更に、外國に於ける保養所の一二と比較して見るならば

場所	検査人員	收容期間	初回血色素量平均%	終末血色素量平均%	増量%	一週平均増量%
ダウオース 獨逸保養所	A 七人 B 一九人	六週	五〇、五	六八、八	一八、三	三、〇
ルイトボ ルト小兒保 養所	C 一〇人 a 二五人 b 一八人	十二週 六週	六〇、七 五〇、六	七七、一 七八、〇	一六、四 二七、四	二、七 二、三
兵庫 海軍 我學舎	八人	四週	六三、八 六五、二	七一、六 八二、七	一七、八 一四、四	三、〇 二、四
我學舎	A 七人 B 五人	六週	八二、四 七七、一	九一、八 九三、七	一五、七 一六、七	三、九 一、八

以上の諸表に見るも他の専門的の保養所に比して著しき遜色なく、否寧ろ優秀の成績を挙げ得たる個所の在る事は吾人の大なる喜びである。

(五) 營養、状態。

これは前節に於ける血色素量の検査に見るも明かである。何となれば、血色素量と營養とは餘程密接なる關係を有すと認められてゐるからである。然かし、血色素とは没交渉に校醫の診定したる結果によつて表示すれば、

(以下記載なき爲人員百八十四人)

營養佳良となりしもの		營養佳良となりしもの	
不變なるもの	一七七人	不變なるもの	九六%
不可となりしもの	七人	不可となりしもの	四%
(六) 顔部(血色)の變化			
佳良となりしもの	一七〇人	佳良となりしもの	九二%
不變なるもの	一四人	不變なるもの	八%
不可なるもの	〇	不可なるもの	一

右表中の不変なるものの外は悉く開校時に蒼白なる子等であつたのである。

(七) 食欲の變化

入舎當時には殆んど全部が味がまづいか、或は少食であつたのであるが、退舎時頃になると、全く例外なしに御飯に味が出て食餌の量が顯著に増加して居る。

これ一つに良好なる自然の環境と科學的秩序的生活と、適度の運動の結果で有らうと思ふ。

(八) 睡眠状態

彼等虚弱兒は大抵睡眠状態が不良である。其の最も多きものは、就寢の當座に仲々眠れないものである。續いて直夜中に恐い夢を見たりなんかして醒めるもの、未明に餘り早く眼が覺めすぎて仲々眠れないもの等である。然かし、林間教養をやる様になつてからは非常に好く眠り出したと喜ぶ人が多い。殊に、退

舎前後の時期になると仲々夢など見ないと言つてゐる。睡眠の状態が例外なく良好になる事は食欲の昂進と共に人間の健康には此上なき保證と言はなければならぬ。

(九) 従前の疾病

病名	人員	全快者	輕快者
感冒、 咽喉カタル、 氣管支炎、 胃腸病、 頭痛、 腺腫、 扁桃腺炎、及肥大 其他、疾病	三二人 一九人 二五人 四七人 一人 一五一人 六八人 七人	三〇人 一九人 一八人 一四人 二人 四二人 六五人 三人	二人 一人 七人 三人 一人 一〇三人 三人 四人

收容期間短きため十分の結果を得なかつたのは遺憾であるが、此れでも大體の傾向は分る事と思ふ。

第三章 精神的方面の影響

以上は大體身體方面に關して略述した積りであるが、更に重要な事は彼等の精神方面の變化である。世人は多く此れをば身體の副産物の如く考ふるもそれは誤りである。學舎に於ける教養中に於て彼等將來の精神生活を轉向し、且つ重要な意義を與ふる事は、殊に吾人教育者てふ立場からは大切な部面である。

元來人間の文化（クルツア）と言ふものの根源は、何と言つても自然（實在）の外の何物でもないのである。クルツアなる語の起りを糺せば、其れは耕作と云ふ意味であつたさうであるが此は實に意味深き事ではなければならぬ。何故ならば今日見る所の絢爛眼を奪ふ如き文化、即ち哲學、宗教、藝術、科學、道德其他あらゆる文化は決して偶然に出來た一朝一夕の事ではなくして、大古以

來何千、何萬年の長年月に幾十、幾億の人間の努力に依つて極めてデリケートに集積建設されたる偉大なる殿堂であるのである。それは、原始より文化へ、自然より精神への無限の過程であり、現實自體の理想化への不斷の努力の結果であるからである。私は信ずる。人類の歴史は原始的動物より人間へ、やがては神への無限の努力の過程である。而して一度嘗て動物たり得ざるものは決して眞に人間たり得ず、一度人間たらざりしものが動物より飛躍して神其物に近接し得ないものであると。従つて人間教育なるものは實に如實の大自然てふ實在の中に於て、此の實在物の力に依つて原始的自然人をば陶冶し啓發する事から始めなければならぬのである。彼の初生兒は單に一つの生物としての存在に過ぎないのである。即ち系統發生に於ける猿猴族時代、或はそれ以前に對應すると思はれる。少くとも野蠻民族である（此の點彼のスタンリー、ホールも言つてゐる）、野人其物であるが教育とは此の野人境を出でない幼年者をして直ち

に現今の如き文化人にまで引き上げる事ではなく、又、言はゞアフリカ山中の野蠻人を拉し來つて一舉に大ニューヨーク市中に投ずるが如きが教育ではなく（斯くて終に彼れの生命を枯死せしめ自滅に導くのみであるが）、眞實の意味の教育とは、自由なる自然の中に於て、其の持てる自然性、野蠻性をば、遺憾なく表現せしめ發揮せしむる事から眞に健全なる堅固なる文化人迄で造り上げる事に外ならぬのである。

けれども、それかと言つて野人は其まゝに放任せよとか。教育不要論とかを唱へるものではない。明かに教育者の大なる胸懷の中には整然たるプランがなければならぬ。本能や衝動を如何様の形に於て、如何なる方向に發現せしむべきかは最も緊要なる教育者の苦心でなければならぬのである。然かし、従來の如く何かに交渉命令のみを「コセ／＼」とやると言ふのは勿論いけないのである。吾人は只だ兒童等が主觀的には自由なり自律なりと思はしむる程度に於

て適當に其方向を善良の方向にコントロールし操作してやる事が必要なのであると思ふ。

兎に角、自然性を自由に發展せしむる事は現在兒童自身から言つても、又彼等成人後の精神生活の上から見ても共に／＼重要な意味を持つと言ひ得るのである。幼時、手に負へない様な腕白、小僧が却つて他の太人なしい善良な少年達を凌駕して偉大なる成功を遂げたり、徳操の高い人格者になつたりした事例は決して少くない。然し私は斯の例を以て腕白と言ふ事と大人物になると言ふ事が必然的因果關係有りと斷言する者ではない。腕白と言ふも常識的の用語であつて其の種類も多く、且つ後年墮落する様な腕白も少なくなからう。然かし、普通世人の常識では考へ得られない程の顯著な變化をしてゐる所の大人物と言ふ者が少くない事を考ふれば、甚だしく不可思議的な事柄であると思はれるのである。恰かも、人間の嫌惡の象徴とも考へられる所の毛蟲が、とても彼の綺

麗な蝶々になるとは、動物學の素養なき人々の豫想だも及ばない所であるのと同様である。而かも眞に美しい、大きな蝶々となる爲には其の幼蟲たる毛蟲が一層毒々しく、大きく十分に其の毛蟲らしさを供へて居なければならぬのである。其の時代から人に好まれる様な毛蟲であるならば決して偉大なる蝶々として大成し得ないのである人間の幼時も亦斯くの如きものであらうと思ふ。勿論其の程度の上の差違は有るとしても多かれ少かれ斯様の傾向の存する事は否まれない事實である。

これは形式論理的には明かに矛盾の様には思はれるので、吾人は假りにダブルツルース（二重眞理）と名づけて置かうと思ふ。如上の方法に於て教育される兒童は臆ては、その養ひ得たる根強き力と、様々の經驗に由る意識内容との働きに依つて、現代文化の最高理解者となり、従つて更によき文化の創造者、或は建設者となり得るのであると思はれる。

現今の教育界に於て創造とか創作とか、高調される様になつたのは悦ばしき現象で有るが、いくら斯く叫んだからとて其の資料、即ち多方面的生活經驗に依る創造材料を與へなければ皆目駄目である。或人は言ふであらう其の材料は讀書に依つて得られると。そは全く事實である。讀書に依つて得られる材料も決して少なくは有るまい。然かし、更に讀書に依る領解を全うさせるものは唯だ彼等の生活經驗あるのみであると言ひ得るのであるし、又、讀書にのみ偏すれば、現實に距れる想像而かも抽象的想像にのみ傾き眞に偉大なるものを創造する事が出来ない。創造せしめんとせば、先づ資料を與へよ、而かも内面的に、眞に主觀化し、個性化せる體驗に依る力である資料を與へよ。而して其の材料の豊かなる所、必ず偉大なる尊き文化存すと言はざるを得ない。之れ吾人の主張である。様々の體驗と讀書とに由つて得たる材料がよき文化を生む事は、恰かも彼の戰場を馳驅する名軍馬が良食と鍛練に依つて異常の働きを爲し得る

と同様である。碌に食も與へないで其の尻許りを叩いたからとて決して強い力が出る驛はない。

最後に教育とは要するに未發展の自然性をば理性化し醇化する事である。而して此の未發展の自然性は何等の人為的加工なき自然てふ環境中に於て始めて其の發現を見、其の本性を捕ふる事が出来るものである以上、人間幼時の教育は先づ自然の中に於て爲すべきであると言ふ事である。

(一) 知的方面

『哲學は吾人の驚異の情に起因す』とは多くの哲學者の齊しく唱ふる所であるが、こは單に哲學のみならず、あらゆる知識少くとも科學は此の驚異の情に即して起る好奇又は求知の欲望に發現せないものは無いのである。

而して幼少期は、人間全生涯中最も求知欲の旺盛な時期であるので、此の時期が後年の知識生活上の最も重要なる時に當つて居るのである。然し乍ら、斯

かる先天的な欲望（本能）又は能力も、そが發展の機會が與へられそれを刺戟し觸發すべき材料が與へられなければ、決して發展するものではない事は心理學上の定説である。

然るに、我が林間教養に於ては、日常彼等が生活し、嬉戯する全環境が、凡べて生きたる教材とし、標本として彼等自身を遠つて生動し變化し、廻轉してゐるのであるからして、彼等の自然物並びに自然現象に對する知的興味は遺憾なく觸發される譯である。目に觸る、物悉くが、小さき彼等の胸に懐く疑問を氷解せしめ、更により大なる解決を得べく疑を増進す、斯くて一問解き去れば直ちに數問來り會し、次第に知識の世界は廣さと深かさを擴張し、一層、知識内容を豊かにすると同時に知的興味も其の強烈さを加ふるや明かである。

かくして、知識の領野は次第に展開せられ、知的能力も漸次練磨せられ、所謂形式陶冶は自然裡に行はれて行く譯である。今此等の方面につきての効果を

列記すれば、

- 一、知的追求的興味或は研究心を高めること、(一般に)
 - 二、観察直観の能力を向上する事、
 - 三、比較、考察、概括作用に馴れて来る事、
 - 四、高次の想像力、推理力の基礎的範囲を豊かにする事、
 - 五、類化、理解、記憶等の能力を發達せしむる事、
 - 六、全精神の集中、統一の心的訓練を爲し得る事、
- 以上は凡べて自然物に對する自發的求知欲と言ふ事から當然生れ出づべき結果である。

其他、身體の或る部分に缺陷ありし爲、一部の知的作用の停滯せる場合にありては、合理的に醫學的に教養する事に依つて直接には身體缺陷を治癒せしめ、延ひては精神活動を促進するに至るは明かである。更に又、如上の身體缺

抹消計	量		誤差	比較誤差	目測	智能率
	正	誤				
生	147	133	14	10	2.3	八三
舍	111	101	10	10	2.6	
均	129	117	12	10	2.4	
平	129	117	12	10	2.4	
誤	129	117	12	10	2.4	
差	129	117	12	10	2.4	
比較	129	117	12	10	2.4	
誤差	129	117	12	10	2.4	
計	129	117	12	10	2.4	
算	129	117	12	10	2.4	
打	129	117	12	10	2.4	
叩	129	117	12	10	2.4	
目	129	117	12	10	2.4	
測	129	117	12	10	2.4	
智能	129	117	12	10	2.4	
率	129	117	12	10	2.4	

陷を有せざる一般的虚弱者にしても、生物學的に教養せられ、生理的機能が旺盛となるに従つて、精神活動も敏活となり正確化するとは最も考へ得べき事である。其の發達の程度とか、蓋然性はどれ程であるかは斷言出来ないのであるが、今参考のために昨年中施行せる入舍兒童と、非入舍兒童の精神検査の結果(入舍期退舍期前後)の比較を見るならば上述の言が稍正確度を増し來ると思ふ。(こは市立兒童相談所の多大の援助に依る)

本校		平均	
生	差	錯	均
		二五	一八七
		二五	一八七
		六	三
		+66	
		六	三
		+3	
		八	七
		八	七
		+16	
		-	-
		二〇	二〇
		+4	
		-3	
		1.5	2.3
		10	10
		-	0.8
			10
九五			

右表に見るも學舎生即ち本學舎にて林間教養をなしたるものと否らざるものとを比較考量するに其の知能率が一般に低きに係らず、學舎生の各機能が著しく進境を見てゐる。殊に、打叩と抹消の如き精神物理的機能とも謂ひつべき作用の顯著なる進歩には先づ驚かれるのである。計算に於て稍遜色あるが如さも學舎生は平均知能率が劣等兒の上位にしか達してゐない爲に其の順應率或は發達率が非常に少なくなければならぬ。且つ本學舎に於ては比較的授業時間が本校に比べて少ない關係上計り能力が右様結果になつた事は少しも怪しむに足りない。

のみならず、今後本校と同様な時間數に於てやるならば知能率に對して破格の進歩を來たすであらうと思はれる。殊に抹消や打叩等は中樞と筋肉との呼應共働の作用の結果なる以上、此れ等が著しく進めば計算等の如き稍機械化せる精神作用は之に比例して進まなければならない。然かし、我が林間教養の日數が餘りに短か、つた爲に十分の結果を得なかつたのであらうと思はれる。それ故に今後は、林間教養の時日を長くし、其の間に於ける兩者の比較をなし、更らに知能指數の相伯仲する兒童等に付きて檢し得るならば一層正確に、一段と顯著なる結果を見得る事は自明である。最後に一言して置きたい事は右の諸種の精神検査は實は、精神中の一小部面、即ち知的方面中の更らに、低度の機械的の部分に過ぎないと思ふ。高等なる推理、判斷、想像、聯想等に關して検査し得るならば、更に一層の好果を見る事であらうと豫想されるのであるが、現今まで行はれ來つた知能検査法中に、しかく完全のものない事を遺憾

に思ふ。

然かし、現在の所、検査の結果に見れば、たとひ小部分にもせよ吾人の豫想又は主張と矛盾してゐないのである。

(二) 情○意○的○方○面

人間に於ける情○意○(ゲミュート)は、人○格○活○動○の○根○源○で○あり、原○動○力○で○ある如何程知的に冷静に判断し得るとしても、其れの表現たる行○爲○の○動○力○、即ち情意にして之に伴はなければ、決して其の眞價を發揮する事が出来ないのである。然らば此の情○意○を○陶○冶○して○人○格○を○完○成○し○道○徳○的○品○性○を○形○成○せしむるには、果して如何様にすべきか？。此の點に關しては様々の方法が唱へ出さるべきであらうが、吾人は先づ何よりも人間情意の爲には、自○然○的○環○境○中○に○生○活○せしむる事にあると主張するものである。如○實○の○自○然○に○對○して○純○なる○子○供○等○の○精○神○が○刺○戟

せられ、觸○發○せられ、驚○異○し、讚○嘆○し、鑑○賞○し、享○樂○する所こそ彼等後年の偉大なる情○意○生○活○の○源○泉○であるのである。彼等が大自然中に生活する時こそ彼等は全く自○然○に○親○し○み、自○然○を○愛○し、恰かも慈母の懷にあるが如く、又は搖籃中に眠れるが如く、等の懸念もなく彼等の全生命を自然にゆだね切つて些の怪しむ所もない。少しの人爲なしに純粹に自然に生き得たる時のみが此の世乍らの天國であり樂園である。天上に妙なる奏樂者有る如く子供等の自然生活の裡に於てのみ、情意の世界は開かれ詩の國は生れ樂の音は著しく諧調の度を増すものである。彼等に於ては自己の感情は聽て自然の感情であり、自然の感情とは同時に彼等のものである。幼○兒○の○情○と○自○然○の○情○とは混○沌○たる一○體○を○なし何等の區別境界を見得ない。自○然○の○中○に○自○己○を○感○じ、自○己○の○裡○に○自○然○を○見○る。天○地○一○體○で○あり融○合○で○ある。

之れやがて、萬○有○に○對○する○愛○と○同○情○との○根○元○で○あり同時に人間道徳の根本的

原動的初發である。

人間に依つて授けられたる道德は著しく便宜的のものであり、功利的相對的のものに墮するに反し、自然に由つて自然を通じて領得せる道德は、より根本的であり、動機的で有り精神的絕對的である。それ故にこは遂には神に徹し。宗教に至らずんば止まざる勞に有るので有る。藝術に於ても又然りである。藝術は個物を通じて全體を表現する事にある。美とはこの藝術に於けるアルプアーで有りオメガであるが、此は實に神が人間に對して、自然の中に、自然を通じて見出すべく與へられたる永遠の賜物であり至寶である。彼等が無心の中に作れる創作童謠等を見れば如何にそれが、自然其物であり、美自體であるか分るのである。

更に、宗教に於ては如何。宗教とは一般に、人間が超人間的、超自然的なる對象、即ち神又は佛と言ふものに對しての無限の歸依であり思慕である。こは

有つても無くても良い様な便宜的のものではなくて、深かく人性の根源に根ざした絕對的感情の表現である。

人間が自然の裡に生活し、萬有に對して同情同感し、愛慕を感じる心は、同時に、戀ては其れ等の最も根源的なる唯一實在、即ち一者又は絕對者を思慕し歸入せんとする欲求に迄で進むべきは明かである。現實生活の有らゆる變化や苦悶の間から不變不動の堪えざる慰安、盡きざる力を願求し、絕對的なるサムシングを欲求する念願を生ずるに至るは必然の運命である。此れこそ實に宗教心の根源であり萌芽である。

宇宙間の有らゆる物事や現象は、悉く神秘である。彼の火の燃え、水の流れ、日の出で、月の入り、雨降り風の吹く等極めて些細なる平凡なる事柄でも一として神秘の名に値せぬものはないと思ふ。自然科学者或は笑ふであらう。『宇宙間に神秘なるものなし。凡べて進歩せる科學の力に依りて説明せられ得

ると」或は彼等學者の立場から見れば此の言には一面の眞理が有るとも思はれる。然かし乍ら、それは單なる一片の理解や説明に止まつて、其が何故に然るか、又斯く成らざるを得ないかてふ眞實の根源よりの必然性、絶對性につきては科學は何等言ひ得ないのである。唯だ單に蓋然性の多きものが現在に於てのみ眞理として一般に認容されて居るに過ぎない。

今日の眞理も科學の進歩につれて明白の眞理否永遠不易の眞理で有り得るとは如何に偉大なる科學者と雖も保證し得ない筈のものである。斯くて年月の進むに従つて其の解釋や考證の程度こそ異なれ、此れこそ萬世不易の眞理であると言ふ境地には永久に達し得ないのが科學の當然の運命であり、同時に本質でなければならぬ。

斯く考ふるならば、宇宙間の有らゆる萬物は神秘である。又化學が如何に進んでも、僅か一匹のウジ蟲さへ作る事が出来ないではないか、生命と言ふ事が如

何に神秘不可思議のものであるかは言はずして明かである。

更に又、自然科學者の唯一の據城たる因果の理法と言ふ様な事も畢竟相對的なもので決して如何なる場合にでも適用の出来る様な調法なものではない。

眞に眞理に忠實なるハムブルなる科學者は實に此の神秘其の物の、より高き理解に向つて精進すべきであらうと思ふ。話は多少横にそれた憾が有るが要するに、自然に於ける生活は、より多く神とか絶對者とかに思慕する様な美しい宗教心を生ずるに著効あるものである。

吾人は常に思ふ。人をして宗教的信念の所有者たらしむる爲には、如何程雄辯なる宗教家の演説よりも、寧ろ莊嚴なる大海の落日を静視せしめ、鬱蒼たる森林中を逍遙せしめつゝ、静かに、且つ明かに語る自然の無聲の雄辯を傾聴せしむるに如かずと。

最後に、林間に於ける自然的教養中に經驗したる情意方面への一般的傾向と

でも言ふものを擧げるならば、

(一) 心情を快活ならしめる事が出来た。

(二) 一般に虚弱児の特徴たる過敏性、及び其の他の病的傾向を緩和し得た。

(此れは前の兒童の告白にもある)

(三) 共同生活の體驗より、自治、自律、規律、秩序等の重要な習慣を養ひ得た。之れやがて將來の社會生活の準備ともなる。

(四) 友人の必要を感じ、且つ其の相互の性格を理解し、同情し合ひ、相互依存の美風を馴致する傾がある。

(五) 家庭と一時的に離れて生活する事に依り、一層獨立の精神を養ひ得ると共に、他方、家庭(父母兄弟)への愛情、即ち家を思ふ心が強烈になる。

彼等が常に親の本にある時には大して有難味も感せないであらうのに、偶々家庭より來れる書信(そは單に通り返し一遍の挨拶であつても)に對し如何に狂喜

して之を迎へるかを見れば、實に思ひ半ばに過ぎるものが有らう。該教養後兒童が従順になり父母の命令に叛かない様になるのも其の爲めであらう。

(六) 質實簡易の生活に慣れ、秩序ある組織的生活を學び且つ、剛健の氣を養ひ得た。

(七) 師弟間の人格的接觸を濃厚ならしめ、其の相互的情誼を厚くし、人格感化は極めて偉大な効を奏し得る。

(八) 腺病性兒童の特性たる内氣、臆病、輕躁、感傷的、疲勞し易き性質、反抗心強き事等は、いづれも自然的教養中に於て、全く消滅するか、或は著しく輕減せられて、遂には豪氣、沈着となり、次第に疲勞を感ずる事が遅くなり、注意の持続も長くなる。一般的に言へば、人格全體がどつしりとして來て凡ての言動が著しく實行的性質を帯びて來る様になる様に思ふ。

(畢り)

(附録第一)

◎郊外學舎の効果を最も多大ならしめる方法

△止宿と通學との得失

△長期と短期との比較

校醫醫學博士 小 田 俊 三 述

郊外學舎の種類は色々あつて高山でやるもの、海濱でやるもの、或は森林中でやるもの、其他島嶼又航海等に依るもの等があるが何れも其特長を發揮して居る。今御津郊外學舎の如く海濱でやるものは臨海學校と稱する部類に屬するもので其兒童身體に効果ある理由は色々あるが先づ次の様な諸因に由るものである。

(一) 空氣成分の優秀なること

都會の如く人家密集し附近に工場の多く存在する所に於ける空氣は各種の塵埃、工場より發散する瓦斯類、廁圍及不潔なる溝堀より揚散する瓦斯、竈火鉢等より發散する炭酸瓦斯、人間の呼氣等悉く人間に有害なる不純物を多量に含むを以て殊に虛弱兒童の健康に甚しく有害である。然るに海濱の空氣は前記の如き有害物を含有せず、且つ人間の健康に有益なる酸素並にオゾン瓦斯を多量に含有して居る。

(二) 太陽光線殊に紫外線の量大なること

都會には空氣甚だ少く且つ交通機關複雑にして兒童の自由に戸外に活動するを許さず多くは軒下又は戸内に於て終始するから前記の如き有害なる空氣を呼吸する外、人體の發育並に健康維持に必要な太陽光線に浴すると少なく就中貧血、腺病等慢性疾患に對して殆ど治療的に使用する太陽光

線中の紫外線と稱するものは都會の上空を被へる不純なる空氣層に遮られて地上に來ることが少い。

然るに海濱にありては空氣が純潔である上に、周圍が宏寬であるから、兒童は、擅に日光及び紫外線の恩恵に浴することが出来る。

(三) 海水の効果

夏季に至りては海水に浴するの便利がある。海水は其温度の寒冷なること、種々の鹽類を含むこと、絶えず動搖する波濤の刺戟をうけること等によりて血行をよくし食欲を増し、氣候の變化に對する身體の抵抗力を増す等の効能がある。

(四) 精神上の効果

周圍の廣きこと、草木花鳥等の自然を知り海波雲影等の景物に接して云ひ知れの爽快を覺え、曳いて身體上に多大の好影響を及ぼす。

以上の事柄だけで既に海濱に於ける郊外學舎の如何に虚弱兒童の向上に向つて裨益するかを窺ひ知ることが出来ようが歐米に於ける數十年の實驗及び我國に於ける十年間の經驗には此事柄を事實とし收獲し得たのである。近くは吾が御津郊外學舎の過去一ヶ年の成績に徴するもはや此の事業の効果を疑ふの餘地はないのである、然り而して郊外學舎の効果の大なる理由の主因は土地其者の恩養であることは前述の事柄でもわかるのである、從て一日でも一時間でも長く其土地に滞留することの効果のより大なることは自明の理である、然し此の事は單なる机上の論であると云ふ人があるかも知れないから余は更に其の所以を科學的に且つ實績の上から論述したいと思ふ。

○通學の不利なる理由と止宿の効果大なる理由

如何なる點から見ても郊外學舎へ通學することの不利なるは多くの論を待たないが少くとも郊外學舎の効果の幾分かを減殺させるであらうと云ひ得る左に

通學の不利なる點を擧げて見る。

(一) 電車内空氣の不潔

(1) 炭酸瓦斯の害 多人數蟻集する電車内では人間の呼氣中に含まるる炭酸瓦斯其他の不良瓦斯が充滿する今試みに大阪市の郊外電車中車臺の最も完備せる大軌電車の例を以て云ふに其車體の容積は約二千立方尺であつて此中に定員を百人として居る故に一人當り約十立方尺となる、然るに成年男子一人が百四十四立方尺の室内（空氣の交流一時間に三回ある日本家屋の）に在りても既に九分で炭酸瓦斯量は吸氣として不良（一プロミルレ）となると云ふから況んや其十四分の一なる僅か十立方尺では一分か二分しか保たない假りに電車は疾走するから強き風の中の室と見做して一時間の換氣を通氣よき日本室の二倍としても五分持つか持たぬである況んや滿員電車をや、次に市電ボギー車では容積が稍廣く一人當り二十二立方尺となつてゐ

るがそれでも五分内外で中毒量に達するのである、然るに市電では乗客の定員以内のことは稀れで常に定員の十五割乃至二十割を塔載して居るから忽ちにして中毒量に達し得るのである。

(2) 電車では人の立ち居の爲めに夥しき塵埃が渦を巻いて居る従て塵埃と共に多數の細菌を吸入しつゝある。

(二) 電車内で接觸並に空氣媒介による傳染病就中猖紅熱麻疹、風疹、流感、ジフテリー等の感染の機會が極めて多い。

(三) 電車内往々にして風儀を亂る乗客あること。

(四) 郊外學舎から歸宅して翌日出發迄の間にうける都會の悪影響であるが之は既に前に述べた所で明かであらう。

(五) 通學生と止宿生との郊外教授の効果に於ける相違を數字を以て示せば實驗上次の如くなつて來てゐる。

(1) 體重に於ては通學生と止宿生とに何程の差ありしか

〔甲〕諏訪の森郊外學舎に於ける比較

一、同學年の生徒の同期間内に於ける比較を見るに宿泊者中前後の體重の明かなるもの六名につきて檢せるに一ヶ月平均體重増加量は六百六十七匁なりし二通學生三十名の一ヶ月平均體重増加量は三百匁なりき

二、通學生中には一ヶ月中に體重の却て減却せるもの二名ありしに反し宿泊者中には最底百五十匁より最高は八百八十匁迄の増加を示し體重の減少せるもの一名もなかりき。

〔乙〕他の郊外學舎との比較

參考として余の經驗せる他の郊外學舎との比較を示さん、但し何れも一ヶ月間の比較であつて體重の増加は何名であつたか又其増加した體重は何匁かを示してゐる（但、左表中の本校成績は昨年七月中二週間の結果）

増加人員		純止宿式 (他 校)		混合式 (本校、但し主に通學式)	
山	海	山	海	山	海
上	濱	上	濱	上	濱
百八十八	百十二	八十一	九十四	五十一	六十八
%	%	%	%	%	%
平均増加率					

之によつて體重の増加した人数も一人當體重の増加割にも甚しき相違のあることを知ることが出来る。

(2) 血色素の増減に就て通學生と如何程の差異があるか

(甲) 諏訪の森の郊外學舎に於ける比較

血色素量は宿泊者に就きて前後に檢し得たもの二名しかない故詳細のことはわからぬが通學舎十名の平均増加率は十一、七%なるに宿泊者二名の平均増加率は二、三%である。

(乙) 他の郊外學舎との比較

増加人員		純止宿式 (他校一ヶ月間)		混合式 (本校主に通學式 一ヶ月のもの二ヶ月のもの各半數)	
山	海	山	海	山	海
上	濱	上	濱	上	濱
一三三	一三三	一〇〇		一七	九
%	%	%	%	%	%
平均増加率				均平	
				一三	
				%	

止宿式と通學式とを比較するに血色素の増加せる人員數に於ても一名當増加率に於ても止宿式の方が如何に好成绩なるかを知るであらう。

○ 郊外教授期間の長き程効果の大なる理由

郊外學舎が虚弱兒童の身體に及ぼす効果は其在學期間の長ければ長き程大なる理由は身體上諸種の效果に顯はれ居るも數字的には左の血色素増加量を見てもわかる。

同年級生に就きて血色素量を前後に亘りて測定し得たる十二名中二ヶ月引き

續きて郊外教授を受けたる七名の血色素平均増加率は一六、六%の多きに達せるに一ヶ月間のみ郊外教授を受けたる五名の平均増加率は九、四%ありしのみ以上記述せる處によりて郊外學舎の效果は學舎に止宿すること、又、期間を長くすることによりて愈々大なることがわかるが扱て兒童を止宿せしめる上の便宜と期間（少くとも半ヶ年理想は一ヶ年以上）を長くするの問題は父兄と當局者間との交渉に俟つことが甚だ大である、希くは兩者協力して此の理想の實現に向つて邁進せられたいものである。

（附録第二）

該施設への疑義に對する辯明

凡そ生命が捕はれた傳習の殻を破つて、更新の一路を辿る時、必ずや舊來傳統の裡に儉安の夢を貪りし人々の間からは聞き捨ならぬ一大事の如くに觀せらるるものである。

而かも、眞實の生命の流^れが活氣に充ち、生氣の盛んなればなる程、それ^に對する疑義は濃厚とならざるを得ないと思ふ。蓋し、こは自然必然の常套事であつて決して驚き慌てる必要はあるまいと思ふのであるが、然かし乍ら、眞に意義ある新施設を繼續し發展し行かんが爲には、斯かる民衆的疑義をば取るに足らぬ事として放任し置くべきではなく、何等かの機會に於て辯明し是正され

なければならぬものと思ふのである。

何故ならば、之をば放置する事に依つて、謬想者は自己の意見に戦ふ。或は之を抹殺すべき、より合理的な、より妥當な思想は存在しないものと合點し、遂には硬化し牢として抜くべからざるに至る恐れがある、かくては、形式的に該事業に賛成し、理論的に承認する共、彼等の心の奥底に力強く潜在する感情が承知しない爲に、多かれ少かれ、陰に陽に事業の進展を害する事が明かであるからである。

それ故に。吾人は今卷末に於て、從來此の學舎の設立に對して向けられ、又は將來も起るかも知れない所の疑義二三を摘出して來て之に對する吾人の態度を明かにして置きたいと思ふ。そして世の多くの賢明なる讀者諸君の公正なる判斷と高評とを仰ぎたいと思ふのである。

先づ、斯う言ふ意見がある。身體薄弱の兒童は全校兒童に對して僅か一部分

に過ぎない。それ故に學區の公費はその費途が全體兒童の上にかゝる場合にのみ消費さるべきものであるから斯様な部分的な特殊な目的に消費するのは不當である。だから吾人は之に首肯する事が出来ない。と。

思ふに、此の説は、或意味からは正當の議論であると思ふ。公費は勿論彼等の主張する如く公共の共同目的の爲に使用すべきである事は少しも疑のない事である。

然かし乍ら。全學區内の薄弱兒童に對して、全體的に之に適當なる施設と教養とを施して之を健全なる身體の子供にまで救済してやると言ふ事が、如何にして個人的な私の仕事であると言へるであらうか。

教育が否凡ての社會的施設や方法が最も理想的に進展する爲には、其の形に於て分化し、特殊化し、個別化せなければならぬ事は自明である。只だ形式的に、抽象的に全體を進めるとか、全體の爲にとか言つても、世の中には何も全

體と言ふものは具體的には存在しないものである、それ故にどうも所謂全體の進め様がないのである。存在するものは凡て個體又は特殊の形で在るのである。それ故に、全體を進め様とならば、先づ、個物や特殊の存在物についてその進展を計劃しなければならぬ。かくしてあらゆる個物が各異つた方向に、各違つた形で發展する事に依つて、所謂全體の進展を期する事が出来るのである。個々特殊の兒童と言ふものの外に全體の兒童と言ふものは存在しないのである。存在せぬ者について兎や角言ふ事は畢竟徒勞に歸すべきである。

教育は個性に適應しなければならぬ、とか、個性化せる教育が最も徹底せる眞の教育である。とか言ふ事は少しでも教育原理の理解ある人々の少くとも承認し、主張する所であるのであるが、彼等全體論者の暴論を以てすれば是れも許されない事になる。つまり、彼等の主張を徹底せしむれば、形式的に同一の施設と、同様の方法とに依つて千差萬別の個人差ある凡ての兒童に對して劃一

的に教育し、而して萬人同様の成果を要求するの愚劣な行り方になる譯である。然し乍ら、此の如きは彼等と雖も覺悟する所である事と信するが、彼と是とは其の程度に多少の違ひこそあれ、全く同様の誤謬であると思ふのである。其の一を許して他を拒むと言ふ事は明かに矛盾である。

從來の劃一教育が如何程大なる弊害を生み出して來たかは何人も之を認め之を排斥してゐるのであるのに、今更斯かる暴論をするとは明かに時代錯誤である。

あらゆる實在の相を其の發展の過程に於て眺むれば、必づや分化の形に於て現前すべきである。完全なる全體の姿に於てはテペローブしないものである。根本の唯一實在からして系統的に分化に次ぐに分化を以てして漸次特殊的方向に發展すべきである。

斯くして凡ての方向に分化し發展する事に依つて初めて完全なる全體として

の實在は發展する譯である。

其の目的は畢竟全實在の發展てふ方向に歸一する筈であるが、實在の一々の部分は、たとひ其の最後の目標が同一であつても、それに至る部分實在の進展する形式は千種萬態でなければならぬ。部分は部分として獨特の事情と個性とを有してゐなければならぬ。生命あるものは凡て明かに個性あるものでなければならぬ。それ故に生きたる具體的全體としての實在を、生きたる相に於て發展せしめんとすれば、各部分的實在の個性を尊重し、之を進展の原理として、個性が規定する必然の道をば着着と進行せしめる事が（部分に取つても）最良の發展策でなければならぬ。十把一束的に凡てを型に入れて之を強いる事に依つて生氣激瀾たる生命は終に枯稿し生氣なき死殼となるを逸れないのである。

今日の教育界が様々の教育説や論議の聞はさるゝに反し、其實績の見るべき

ものなく全く行き詰りの状態に在るは、一つは其論義が不眞面目にして深く實在の真相を洞察せず、甲論乙駁、喧々囂々として互に論ふと雖も全く混沌たる思想上の無政府状態にして何等の歸趨なく、其多くは論理の遊戯又は戯論に終り、少しもその眞實性のなきこと（中には議論にさへ勝てば實際なんかはどうでもよいと言ふ様な輕薄な輩も少くない）と今一つは、教育上の原理をば抽象的のまゝに、対象を選ばずに同一の方向に、同様の方法を以て一舉に全體を進め様とする過去の捕はれた傳統的教育法との二つが斯くの如く教育界の空氣を沈滞せしむるのではあるまいか。

後者について言を換へて見るならば、過去に於ける教育の施設や方法は既に硬化して仕舞つて、その中に住む教育者は、此の傳統其の物の空氣に慣れ、之に甘んじ、之の傳統の殻の中に安き眠を貪つて居るものであるからしてその殻なるものが醜なる殻なりとするものが之が醜なる事に氣がつかずに、從來の通

りの方法（即ち惡平等的、劃一的）に依つて日常の事務を取つて行けば、形に於て大した間違ひは出來ず従つて我人共に之を怪しみとがめる者もなかつた譯である。又從來の一般的教育法とか、一般的教育原理とか言ふ様なものは微細の點に於ては其の人々の立場立場に依つて多少の相違は有るが、大體的に言へば、公理的に一致し、萬人の承認すべき原理が在り得ると思ふし、それに此方面は近代に至つて甚だしく研究が進んで來て吾々淺學の者には殆んど論議し、開拓する餘地が見えないときへ思はれること屢々である。

それ故に今後の教育界の發展は、一般的、全體的の形でなしに特殊的部分的の形に於て一層深く研究し開拓し行くべきであると信ずる。單に理論的に研究の對象とすると言ふ事のみでなしに、眞面目に實現する事により多く力を注ぐべきであると思ふのである。

かくする事に依つて行き詰れる教育界は新生面を開き、沈滞せる空氣は清鮮

となり。活氣なき死の教育界は再び潑刺たる生命を恢復するに至るは當然の歸結であらねばならぬと思ふ。斯くする事を措いて眞に教育上の發展を云云し、過去の儘の教育の中に尊き生命を見出し、深き意義を尋ねんとするが如きは、誠に土偶に生氣なきを嘆ずるの愚に等しいのである。

あらゆる方面への。あらゆる意味に於ける特殊施設及び特殊教養が、全教育作用を進展せしむべき第一原理でなければならぬ。此の意味に於て身體薄弱兒への特殊施設と教養とは、形は特殊の教育作業にして實は即全教育作用であるのである。此の點、劣等兒や優秀兒、又は普通兒に對して各別各様の方法的顧慮をなす事と少しも變りはないのである。

殊に、彼等の説の矛盾して居る事は、從來存續せる高等小學校である。之は實は全く義務教育外であつて、而かも其の中に收容する人員から言つても、他の中等學校へ行つたり、或は尋常科で止めたりする子供の殘部の僅かの人員で

ある。即ち全學區内の學齡兒童から言へば、單に一部分の人々に過ぎないのであるが、從來は彼等と雖も神妙に、何等怪しむ所なく公共費を消費することを認諾して來て居たのであるのに、何故に虛弱兒童てふ可憐の對象を救濟する事に快諾をしないのであらうか。吾人の如何にしても諒解出來ないのは此の點である。

是に關して余は私かに思ふのであるが、もしこの私の考へが一つの邪推に終るならば、それは誠に結構な事であると思ふ。と言ふのは、第一斯かる不賛成説を唱ふる人々も、單に抽象的に、自己との利害關係なき場合に於て公正に考へた場合には、該施設と特別教養を爲す事には大賛成の人々のみで十人中一人も之に反對する者はあるまい。然し乍ら、それが學舎の完成後に於ても自己の倅や娘が其の恩典にあづかる事が出來ないからと言ふ理由で反對説を持出す人も少くあるまいとも思はれる。

若し、之の推定が眞ならば、それは明かなる誤謬である。何故ならば、自己が所屬自治團體の一員としてその社會形成に參與して居る以上、その社會又は自治團體より陽に陰に、多かれ少なかれ恩惠を受けてゐる事は事實である。而して社會は其の社會内に住む凡ての人々をして幸福に生活せしむべき本務あるが故に、其の本務の一部分たる特殊兒童の教養に對して盡力すべきは、其の一成員としては誠に當然過ぎる程當然である。之に對して色々の不平等は言ふべきでなく寧ろ自ら進んで斯かる事に當るが良いと思ふのである。

假りに、該社會より何等の利益を受けて居ないとするも、美はしい人道的良心からしても進んでか様な不憫な人々を救ふべきで、自己の子弟が、其の恩典に浴しないと言ふ事は、不平の種所か、却つて子供の體格が、特別教養を受ける程弱くなかつたと言ふ點に於て寧ろ、悦び満足し、其の悦びの部分をでも可憐兒に泣く多くの父母に得さすべく努力し、斯かる施設を發展せしむる様に力

を盡くす事が眞に人間として望ましい事ではなければならぬ。如何に都會地が商業地だとしても、かかる道義的問題にまで利害差引の勘定から掛つて行く事はどうか、切に識者の一考を煩はしたいと思ふ。

更に、次に來るべき疑義は、野外林間に於て教養する事に依つて知的方面の陶冶が稍劣りはしないか、と言ふ事である。之も一應御尤の説である。何故ならば該教養中は時限の長さとか、全體に於ける學習時間と言ふものが普通小學校に比して稍短縮してあるからである。

彼等は單に形式的な時限の長短と言ふ事に由り、或は極めて一時的の現象として進度に於て一二頁後になつたとか言ふ様な、誠に皮相的な外面的な形式に捕はれて薄弱なる根據の下に斯かる疑義を挿むのであらうと思ふ。

彼等には單に、學校の正課の時間内に教授される學科の範圍以上には眼に見えないのであらうが、今少しく眼界を擴張して大きな知育と言ふ立場に於て

之を觀るならば、それは全く別様の世界が驚くべく偉大に莊嚴して、彼等の前に展開されるであらうと思ふ。

先づ知識の實質に於て考ふるならば曩に精神的方面に於ける影響の章にて詳述せる如く、正課の教授以外に彼等を取り卷く無限の自然物及自然現象からして、絶えず學ぶ事が出來、少くとも、その大自然の中から受くる無盡のヒントに由つて尊とい幾多の質疑を起こし、同時に之に即して求知欲をそゝるが故に、言はゞ潜在的には多くの知識を得たと言つても宜いのである。勿論、前の場合の如きは明かに顯在的に實物に即した尊とい收穫を擧げ得た譯である。以上は自然からの直接の收穫であるが、彼等は又、本具の知的探求欲からして、多くの疑問を提げてより一層閑靜な自由な讀書室へと向ふ。かくして、日を経るに従つて不知不識の間に驚くべき多くの知識を收得しうる事となるのである。

從來の野外學舎は其の收容期が餘りに短かつた爲、兒童等は心身共に、其

の生活に順應する迄に多大の努力を費し、多少、學舎の仕事にも慣れて来て、調子よく、此れから能率が上るだらうと言ふ時になつて退舎せなければならんと言ふ様であつた關係上十二分の結果は得られなかつたが、愈々徹底的に行る様になれば必ず上述の點に優秀な結果を將來すると思ふ。

次に、知識の形式に就いて述ぶるならば（茲の形式は主として受領理解等の能力の意味である）、先づ常識的に考へても、良好なる衛生的環境の下に、系統的合理的に向上せられたる彼等虚弱者連の身體精神が、一般的に活氣を呈し、凡ての有機的生理的機能は敏活となり、その活動は調整せられて來るに従つて、神経系統にも同様の好果を與へ、それが爲に一般に心的活動が敏活化し、正確化するものであると思はれる。つまり、之で知識を受け入れる能率が増大したとも、能力が高められたとも言ひ得るだらうと思ふ。平易に言へば、知識の容器が大になつたと言ふ事になるのである。それ故に、假りに、知識の既收量に

於て多少劣つたとするも（前述の如くそれは全々ないのであるが）其の可能性に於て遙かに勝つて來たのであるから、目前の事ではなしに、將來的に發展擴張する速さから言つても、程度から言つても共に激増する譯である。例へば甲の従前の知的發展の最高限度が（六）であつたとし、林間教養後にその限度が（十）に高められたと假定すれば、其兒が其の儘都の塵埃裡に學習を續けて居れば、その限度六の中が五まで達し得るとし、林間教養に依つて四まで知的實質を得たとするも、現在の一時的現象としては劣つて居る様に見えるが將來的に、終局的には後者の方の勝利に歸する事は明かである、之を人生に譬ふれば、前者は過去數十年を経験に世故に長けたる老人にも相當し、後者は未だ經驗は前者に劣ると雖も洋々たる前途を有する有爲の青年に當ると言ふべきである。

然るに現在及び將來共 知的實質に於ても些の遜色なく却つて、高き知識生

活への強固なる背景（地盤）を形成せる點に於て野外教養の知的効果は莫大でなければならぬ。

以上は知識の形式即ち能力について常識的に述べたのであるが、昨年行ひたる學舎生の收容前後に於ける各種知能検査の結果は明かに之を立證し裏書するものである。（此の點、前章に於ける知的方面の影響てふ節の参照を乞ふ）

次に學舎内に宿泊せしむる事に關し、小學校では法令上禁じて有る様に思ふが、此れには色々の理由があるかも知れないとしても、此の一般的原则的な條文を固守し、捕はれたる解釋をして之を嚴禁すると言ふ様な官廳が有るとすれば、それは明かに眞實の文化發展を阻害するもので甚だ遺憾の事であると思ふ。教育的事實が進展し、分化して來た今日、原則的な法令のみを以て千遍一律に之を拘束する事は、全く不可能の事でもあるが、一方、又有るべからざる事であると思ふ。

あらゆる原則的な法令には、其の除外例を認め之を認容してあるのに、教育法令のみ獨り原則的なものを墨守して教育作用の意義多き進展を妨げるのであらうか。

歲月は些の澱みなく流れ去りて瞬時も停滯するなく、人事百般の文化現象は變遷進化して須臾も息む事のないのに、何が故に教育のみ單り數十年前に規定せる法令に依らなければならぬのであらうか。何と言つても法律命令は、一般に時勢の變遷と、人間の理想とに依つて常に改變しなければならぬものであると思ふ。かくてこそ始めて人間文化の發展は愈々向上し障害なく進展し得るのであつて、人間が人間のためにと造つた法令で人間の發展を害する迄に束縛せられると言ふ事は甚だしい矛盾であり、明かな皮肉である。吾人は斯様な意味の法令を極力呪はなければならぬと共に、より良き新法令の速かに規定せられん事を中心希望するものである。

昨年、本學舎開設に當つては、理解ある先輩、有志、當局の人々の多大の助力に與つて居るのであるが、其の主なる困難としての法令の抵觸は、其の學區外に於て學舎を建設する事の當否問題に始り、前述の宿泊問題及び教授、訓練、養護上に於ける微細なる問題、其他之等に聯關する大小様々の研究問題が起つた譯であるが、是は一重に法令の舊式にして粗漏なる事に歸しなければならぬと思ふのである。

小學校令第一條には、其の冒頭に「兒童身體の發達に留意し」と明記してあるからには、之より演釋すれば身體教育を中心とする特殊施設も當然認許せられなければならないのに事實上、現法令は明かに之に矛盾してゐるのである。今少し具體的に融通の利く様な法令が設定される事が望ましい事だと思ふのである。

叙述は外に横に外れた感があるが、要するに、野外學校に於て最も効果あら

しむる最良法としての宿泊制度が禁せられて居る現行法令への不満を述べ、序でに、斯かる特殊施設全體に關係する法令の改正せられん事を希望して置いた迄である。

宿泊と言ふ事に關聯して起こる問題であるが、多くの未経験の人々は、兒童が、そんな淋しい田舎によう辛抱しないだらうと云ふ事である。

此の點に關しては、私等の經驗に依れば、多少宿泊者の中には、家庭に歸りたがる子供も有つた様であるが、其れは畢竟次の諸事項に注意する事に依つて、殆んど防ぎ得るのではあるまいかと思ふ。

- 一、運動用具を成るべく多方面に涉つて備へて置く事、
- 二、雜誌及び圖書類の豊富を期する事、
- 三、娛樂機關の設備を完全にすること、
- 四、宿泊友達の成るべく多き事、

五、一定の期日を隔てて家庭に歸らしめ又は父母兄弟と會合し得る機會を作る事、

六、教師や、療母、看護婦、使丁等が凡て丁寧、親切にして兒等を眞に愛すべき事、

かくすれば、殆んど全部の子供が宿泊を希望する様になる筈である。しかし、餘りに幼年者は、より多く望郷の念に驅られ安く、宿泊せるものに對しても、仲々手数がかゝつて行き難いものである。之の邊は實際上の機微な點に這入るので叙述は大體此の邊にして置かうと思ふ。

主要なる参考書目

- 文部省講習會 ○ 就學兒童保護施設の研究
- 吉田熊治 ○ 社會教育
- 大日本文明協會 ○ 都市の兒童
- 小田博士 ○ 夏季海濱教育の腺病質兒童の身體に及ぼす影響
- 同氏 ○ 野外學校の學理と實際
- 笠原(道夫)博士 ○ 異狀兒教育の理論と實際
- 同氏 ○ 教育病理學
- 杉田直樹博士 ○ 低能兒及不良兒の醫學的考察
- 藤岡眞一郎 ○ 促進學級の實際的研究
- 岩崎重三 ○ 天才兒と低能兒

大阪市教育部

。フェリエンコロニーに関する研究

木村久一

早教育と天才

石原博士

自然療法

同氏

石原學校衛生學

古瀬安俊

。學校衛生

三田谷啓

教授衛生

脇田良吉

。異常兒教育の實際

笠原博士

腺病質及其の療法

文部省普通學務局

夏季休暇中の體育施設に関する意見

中澤忠太郎

學校衛生に関する實際的研究

長尾藻城

日本轉地療養誌

久保良英

兒童研究所紀要

檜崎博士

一般素質知能検査法

青木誠四郎

低能兒の心理と教養

上野陽一

精神検査法指針

上村福幸

知能測定法

中村翁

少年不良化の経路と教育

吉田章信

體育運動生理

田所啓太郎博士

食品化學

岡村準一

兒童保護の新研究

大串博士

體格營養判定準表並原理

稻葉翰一

學校衛生及兒童病の研究

山本勘助

學校に於ける身體修練

脇田良吉

成績不良兒教育法

西宮藤朝 小供の感情教育
 福島政雄 教育の理想と生命
 永井博士 醫學と哲學との堺
 文部省 學齡兒童身體檢査統計表

- (1) Hugh Braughton, The openair school.
- (2) M. Terman, Measurement of intelligence.
- (3) Seguin, Idiocy;—Treatment of phigiological method.
- (4) Froebel;—Education of man.
- (5) Barr;—Types of mental defective.
- (6) S. Hall;—Adolescence.
- (7) Partridge;—Genetic philosophy of Education.

大正十二年七月十日印
 大正十二年七月廿五日發

刷 行

日本に於ける常設林間學校之實際

定價金貳圓



著者 龜島辰

著者 石原正



發行者 吉良兼興

東京市本郷區湯島新花町六十三番地

印刷者 松野清太郎

東京市小石川區關口水道町廿三番地

發行所

東京市本郷區湯島新花町六十三番地
 振替口座東京四六五六二番

新 教 社

2/23
9

終

